モントリオールへの道

来年の今ごろは、モントリオール・オリンピックが終わり、日本協会は新しい段階へ歩みを進めているだろう――。

つまりは、本舞台まですでに1年の月日を切ったわけだ。

にもかかわらず、日本協会、とりわけナショナルチームの周辺は、男女とも静かである。

4年前、ミュンヘンを目指していた頃のメモをみると、アジア予選を控え、日本協会は活気にあふれ、ナショナルチームもレギュラー争いにしのぎを削っている。

4年経った今、本来なら、その時と同じような熱気が渦巻いてもよさそうなものだが、それをあまり感じとれないのは、気になるところだ。

協会幹部たちに聞くと、アジア予選がいぜん中途半端な形のままになっていることが大きいという。

それに、アジア各国の手の内が判ってしまい、緊迫感を呼ばないのも一因とみている。

もっともな話だし、ある意味では、ミュンヘンを体験して得た日本協会の〝余裕〟とも受けとれるのだが、いつこれが〝おとし穴〟に替るとも限らない。

日本以外の国が急速に力を伸ばしているという情報はなく、今回も「日本有利」は、動かせないと想うが、ナショナルチームの周辺に、例え一片でもゆるみがあるのは好ましいことではない。

全日本・竹野奉昭監督もこの点を、つねづね心配しており、日本協会の選手強化体制が、いつも「臨戦」に近いような緊張の状態であるのを望んでいる。

筆者も、それは大切だと思う。

特に、日本協会がナショナルチームの育成、強化を、漫然に対処してしまうのは、あとでの悔いにつながりはしないか。

本誌6月号に発表されている男女全日本の強化合宿のうち、男女とも、すでに各1回が招集されずに終っている。

財政上の問題とも伝えられるし強化合宿そのもののプランニングに、執行部とコーチングスタッフの考えがズレているとも伝えられる。ナショナルプレイヤーのリストアップ(発表)についても、何かスムースなベルトの流れを感じられない。「あと1年しかない」を「まだ1年ある」と解釈して、男女コーチングスタッフと執行部は徹底したディスカッションを展じ4年前の熱気を甦えらせて欲しい　（杉山）

市民ハンドボールの芽

この2～3年の傾向と云ってよいと思うが、各地方で、種別の枠をはずした大会の組織化が目立っている。

これまでは学生、高校あるいは実業団といったタテ割り主体で、それが当然とみられていた。しかし、クラブ育成の手段として、このシステムの拙さに気づき、オープンな体制になったのは、大いに歓迎されるべきであろう。

ワイド化したといっても、登録チームが圧倒的に多い高校は競技時間などが異るし、さすがに包含できぬが、その他の種別を「社会人」という名で一括りするのは当を得たアイデアだ。

ヨーロッパ諸国の組織をみても、すべてこのシステムである。学生だとか、ましてや実業団教職員、自衛隊といった〝職種〟?による色分けはされていない。

クラスを分けるとしたら、せいぜい年令を基準にした横割りである。

だから、市民ハンドボールが育つのだろう。

日本協会に先がけて（というよりは、日本協会レベルでは実現が難しいので）、地方協会が「社会人リーグ」「一般リーグ」を推進しているのは、クラブチームの意欲を再燃させる導火役にもなったようだ。

もちろん、各地に既存するクラブリーグも市民ハンドボールの芽として、その熱意、努力を買うところだが、一歩進めた段階としてのオープン化は、今後に大きな期待がかけられる。

この色彩が強まり、濃くなってくると、頂点―底辺―楽しみのハンドボールといった3点が一つの線に結びつき、例えば、いま、話題になっている日本リーグも、市民ハンドボールと無縁の存在ではなくなってくるのである。

いわゆるスポーツクラブが未成熟な日本では、シビリアンスポーツが、スポーツ界の主流になることは、なかなか難しい。

各地で試みられはじめた社会人ハンドボールの組織化も、難題をかかえてはいるだろうが、なんとか実りをあげ、花を咲かせて欲しい。

ヨーロッパのハンドボール関係者は「日本には〝市民ハンドボール〟が無いのではなく、育てようとするシステムがないのだ」と云う。

指摘されたそのシステムが、どうやら地方の情熱家たちによって芽生えはじめてきたのはすばらしいことである。　（Z）

「ハンドボール」

50年8月号（第133号）目次

【表紙写真】6月韓国で行われた日韓学生交流から。（全日本学連提供）

全日本女子（50年度）の顔ぶれ決まる

日本協会は7月19日注目の「昭和50年度全日本女子ナショナルチーム」を決めた。

女子コーチングスタッフと技術部がリストアップ、同日の月例常務理事会へ提出したもので、GK4、FP15名のあわせて19名。

5カ月後にせまった第6回世界女子選手権を最大目標において、その候補選手として強化がすすめられる予定。

世界選手権代表選手の決定は10月中旬とみられる。

なお、男子のプレオリンピック（9月、モントリオール）出場選手発表は、8月なかばに延ばされた。

◇

密室試合（2月東京＝本誌129号参照）の末、手に入れた出場権。

しかも、モントリオール・オリンピックへつながる世界選手権（12月2～13日・ソビエト）の候補選手とあって、井薫監督（立石電機）らコーチングスタッフは、慎重な選考を進めていたが、発表されたリストは、予想どおり「49年度ナショナル」18名のうち、17名が選ばれている。

昨年の選考時点で11人の『新人』を起用、長期展望に立った頂点強化路線のスタートといわれていただけに、当然の成りゆきであろう

新たに加ったのは小森（ブラザー工業、佐世保商高出、20才、166cm、58K）、桜庭（日立栃木、秋田和洋女高出、20才、155cm、53K）の二人。ともに初めての全日本入りである。

昭和50年度女子ナショナルチーム
（第6回世界女子選手権候補選手）

・GK

氏名	所属	年齢	身長	全日本入り	出場数
○和田祥子	立石電機	23才	168cm	47年10月	⑮
鈴木はる子	日本ビクター	22〃	172	48年7月	・
○久保徳子	田村紡	22〃	162	48年7月	①
○渡辺久子	日本ビクター	22〃	161	49年12月	⑥

・FP

氏名	所属	年齢	身長	全日本入り	出場数
○島田夏枝	立石電機	24才	163cm	45年12月	㉔
○古佐原ひろ子	東京重機	24〃	153	45年12月	㉔
○蔵田照美	立石電機	24〃	162	45年12月	⑯
○山下恵美子	立石電機	22〃	159	48年7月	⑯
○有賀もと子	東北ムネカタ	21〃	165	49年10月	②
○菊地春美	東京重機	21〃	162	49年10月	⑥
○松下仁美	田村紡	20〃	163	49年10月	⑥
○額賀美恵子	日本ビクター	22〃	163	49年12月	⑥
○加藤美起子	日本ビクター	20〃	165	49年10月	⑥
大場裕子	大崎電気	20〃	165	49年10月	・
小森久里子	ブラザー工業	20〃	166	初	・
桜庭郁子	日立栃木	20〃	155	初	・
○紀野奈々美	立石電機	19〃	165	49年10月	③
○穂積美保子	日本ビクター	19〃	168	49年10月	③
○河田栄子	田村紡	19〃	166	49年10月	④

・○印はアジア予選（今春）出場者～15名～
・○内数字は公式国際試合出場数
・年月は全日本入り初時期を示す。

激しい〝代表争い〟望む

世界選手権の代表選手は12～14名といわれ、最終選考は、10月19日の全国代議員会前とみられるだけに、それまでの2カ月余、チーム内の競争は熾烈をきわめそうだ

コーチングスタッフの狙いも、当然、そこにある。

今春のアジア予選で、6戦6勝（総得点159、同失点55）と危気なく勝ち進んだものの、若さからくるもろさを露す場面がしばしばだった。

初めての公式国際試合、そのうえ、あまりにも異常な周辺、というハンデを差し引いても、たくましさ、迫力という点で、歴代の全日本に見劣りがしたのである。

強化関係者は、その欠点を補う手段の一つとして、内部でのせりあいを企り、心技の充実を目論んでいる。

48年度ナショナルが24名、47年度ナショナルが31名であったことからすれば、その割に〝競争率〟は低い感じだが、これは、本大会まで5カ月という事情によるものまず、当代最強の顔ぶれが網らされているといってよい。

井監督は「よほどのことがないかぎり、このあと入れ替えはしない」といっており、今回発表されたメンバーが世界選手権最終候補選手といえる。

プレ五輪代表の発表は8月中旬

女子とあわせて、男子の「50年度ナショナル」あるいは「プレ・オリンピック代表」（14名）の発表も行われるのではないか、と伝えられていたが、正式決定は8月中旬に延期された。

日本協会・荒川理事長の話によれば「コーチングスタッフと技術部は、すでにプレオリンピック代表の、リストアップを完了している」とのことなので、事務的な手続きが終わり次第、公表されるだろう。

コーチングスタッフは、これまでどおり男子が竹野泰昭（監督）、東嘉伸、女子が井薫（監督）、鈴木義男、池田鉄哉、藤原侑の各氏で補充はなかった。

アジア予選9月末に具体化か

モントリオール・オリンピック男子アジア予選（日本など5カ国参加）の開催地、競技方法についてその後も、IHF（国際ハンドボール連盟）から具体的な指示がなく、9月25日モントリオールで開かれる予定のIHF理事会まで動きはないとのみかたが強まっている。

9月7日 壮行試合（東京体育館）
～プレオリンピック代表～

日本協会は、9月7日午後東京体育館で、プレオリンピック（9月26日～10月2日、モントリオール）に出場する全日本男子チームの壮行試合を行うと発表した。

同チームと対戦するのは、ミュンヘンオリンピック代表選手を中心とする「日本選抜」の予定。

この試合に先立って昭和50年度女子ナショナルチーム19選手（＝別掲）による公開試合も行われる。

入場券は一般・学生500円、高校・中学生300円。日本協会（03－467－七〇九七）で取扱っている。

◇…プログラム
・午後1時30分　全日本女子A対全日本女子B
・午後3時　プレオリンピック代表対日本選抜

「日本リーグ」（実業団リーグ改称）前向きに検討へ

本誌既報のとおり、全日本実連は、昨年から実施している「日本実業団リーグ」を、明年度以降「日本リーグ」と改称、男女とも8チームで春・秋2回総当り（試合総数112）によって行うことを申し合せ、7月19日の日本協会月例常務理事会で、山田稔実連理事長（日本協会常務理事）が説明した。「日本リーグ」という名儀権を、日本協会が所有しているわけではなく、出席した各常務理事も異論は特になかったが、その運行に関しては、他の大会との調整も必要なことや問題点もあるなどから、小委員会をつくり、前向きに検討を進めるとした。

◇

「実業団リーグ（全日本実業団選手権）」を「日本リーグ」と名付けることは、全日本実連のかなり前からの希望であった。

日本協会の会議のテーブルにもいくどか、この問題は持ち出されたが、そのつど〝結論〟にいたらずむしろ尚早論が支配的だった。

日本協会の構想のなかに、欧州各国が採用している最強チームによる国内選手権をサーキット化して、日本リーグとすることがあったのも一因だった。

今回、実連が組織決定として〝改称〟を届け出たのは、参加チームの実力が男女とも国内最強レベルにあるという自負と、「実業団リーグ」というネーミングではアピールするものが少ない、の2点だといわれる。

日本協会側は、〝国内選手権構想〟が具体化していないため、実連の申し出に待ったをかける理由もなく、協調の方向を打ち出した感じだが、全日本総合選手権との関連や、受け入れ先となる地方組織の意向が現時点では未確定、など、今後に残された課題も多い。

また、他競技団体の「日本リーグ」は、実業団大会を発展させたものではなく、他分野にも加盟の門戸を開いており（実際には企業チーム以外が参加しているケースはないが……）、この点、ハンドボールと大きな違いが生じるのも検討が必要だろう。

IHF審判会議へ安藤、岡前氏

等15回国際ハンドボール連盟審判会議（国際公認審判員講習会）は7月13日から20日までの8日間オランダのシッタード市のリンブルグスポーツセンターで開かれ、日本協会は安藤純光（写真上）、岡前義春両国際公認審判員を派遣した。

安藤氏は前回（昭48）につづき2度目、岡前氏は初の出席。

今回の会議は、競技規則改正問題は少なく、将来の審判像、国際審判機構の点検、審判員の心理分析などが主なテーマと伝えられている。

補正予算案まとめる

日本協会は7月6日名古屋で財務委員会を開き、5月17日の全国理事会（本誌131号既報）で基本方針をとりつけている「昭和50年度日本協会一般会計補正予算案」を作成、全国代議員会にかけ承認をうける手はずをととのえた。

同案によると、全組織の役員を対象とした「役員協力金」を3年ぶりで復活、160万円の収入を見こんでいるほか、本誌への協賛広告（各組織分担）で470万円の収入を企ることとなった。

この630万円を含めて、収入予算総額は二三、五一九、六〇〇円となり、今年度事業（支出予算）＝総務企画963万、財務43万、審判171万、技術330万、普及指導123万、中学委70万、三部合同委5万など＝をまかなう。

7月31日に全国会議

日本協会常務理事会は、7月31日東京・岸記念体育会館に、主として財政問題を審議するため全国理事会、同代議員会の緊急招集を決めた。

燃えるか「松ヤニ」論

数年前から主として、成年チームのあいだで、ハンドリング補強のため、「松ヤニ」（西ドイツ製）の使用がさかんになっているが、このほど、愛知実連で、会場側の申し入れにより「松ヤニ」禁止を決めた大会で、それを破り、同連の次回公式戦へ出場停止を課せられた男子チームがでた。全国でも初のケースだろう。

「松ヤニ」はフロアを汚損させボールの消耗もはげしく、歓迎されざるハンドボール用品といわれるが、ヨーロッパのインドアゲームでは、大会の大小を問わず今や常用品といわれ、国内への輸入を引き受けているKスポーツ用品（東京）の話では、各チームの需要はシーズン毎に増しているという。

日本協会では、会場側が禁止している場合以外は特に規制の申し合せをしていないが、今後、論議を呼ぶことが考えられる。

モルテン（男子用ボール）、初のＩＨＦ公認球に

日本のモルテンゴム工業株式会社（本社・広島市横川新町）製男子ハンドボール「ＭＴＨ３」「ＭＴＨ３ＳＬ」の二製品が、ＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）の公認球として正式に認可された。

日本製ボールがＩＨＦ公認球となるのは、史上初めてのことで、日本ハンドボール界にとって永年の宿願がかなう快事である。

また、革貼製ボールが、ＩＨＦ公認球となるのは、今回のモルテン二製品が世界で初めて。画期的なことと云える。

同社によれば、公認決定は今春４月30日付で通知され、６月６日すべての手続きを完了。ＩＨＦマーク入りの白球を７月初めから颯爽と〝登場〟させている。

公認ボールの国内販売価格は「ＭＴＨ３」が四千五百円、「ＭＴＨ３ＳＬ」が三千八百円。

同社が引きつづき申請していた女子用ボールも７月上旬「公認内示」を受けている。

また、同社以外のメーカーも公認申請の動きが積極的になっている。

規定改正でチャンスつかむ

解説

〝快挙〟である。日本協会関係者にとって、日本製ボールが、ＩＨＦ公認となることは一つの夢であり、理事会などでは何回となく議題にされていたが、ボールメーカー筋にとっては、なおさらの懸案であった。

日本のボール製造技術は、国際的に高い水準にあるとされ、ハンドボール以外の競技では、かなりの国際進出がすでに遂げられていた。

ところが、ハンドボール界は、ＩＨＦが、ボール規格の第一条件として「革・手縫製」を定め、永くこの規定を改めようとしなかったため、「合成皮革」によるボールを多産している日本の業界は行く道がなかった。

ＩＨＦ公認印も晴れがましい「モルテンNo.３ＳＬ」(上)と「同No.３」

ところが、一九六〇年代後半に入って、国際的にも、現行一辺倒の規格に改善を求める声が強まり同時に、日本などの「合成皮革」ボールの品質改良、技術開発が進んで、ＩＨＦ筋の注目を集めるようになった。

このため、昨年10月の第15回ＩＨＦ通常総会で「ボールは球形で内部はチューブ（ブラダー）から成り、外面は単色の革または合成皮革で造られねばならない」と改正が行われ、新しい時代の幕あけが告げられた。

この改正は日本の業界を雀躍させ、とりわけ一九七三年（昭48）から革貼製ボールをＩＨＦへ持ちこみテストを依頼、一九七四年（昭49）11月には改良型を提出するなど、公認申請の地固めを進めていたモルテンゴム工業は、「当社ボールの申請諸条件がすべてととのった」として、快挙達成へ確信を深めていた。

同社東京営業所長新田米造氏によれば「これまでにも年間三〜五千個がスイス、西ドイツ、ベルギー、イギリス、アメリカ、カナダなどへ輸出されているが、あくまで練習球として革貼ボールの経済性を〝強調〟したものであった。

今後は、オリンピックや世界選手権の試合球となるべく、いっそう努力したい」と意欲を燃やしている。

日本協会筋も、今回の公認を大歓迎しており、特に、42年理事長就任以来、渡欧の機会には、必ず旅行鞄にボールを詰めこんで出かけ日本製の良さを紹介して歩いていた荒川清美氏は「日本チームのオリンピック参加に匹敵するできごとだ」と喜んでいる。

モルテンの公認獲得で、国内で行われる公式国際試合のたびに、ヨーロッパから公認球を取り寄せるテマも省けることになるし、使用球をめぐっての、わずらわしい事務的折しょうも軽減されよう。

なお、公認球に押印される公認マーク使用権利金は公けにされていないが、年額１万スイスフラン（約100万円）と云われる。（杉）

全国1568校の結晶ここに

盛夏の球宴・第26回全日本高校選手権は8月2日から7日までの6日間武田信玄公ゆかりの山梨県塩山市の塩山中学校特設グランドで開かれる。

今年は史上最高の1568校が予選に参加，その中から選び抜かれた男女各校による熱戦はいっそうの激しさを呼ぶものと期待される。

優勝校（男女）は8月22，24日韓国・ソウル市で行われる日韓交流の代表校となる。

全日本高校選手権展望・嶋田新太郎（全国高体連ハンドボール部副部長）

毎年注目の初出場校は男子が10女子が6校。

例年より少なく、新鮮味という点では欠けるかもしれぬが、拓大一(東京)、名古屋市工(愛知)、此花学院(大阪)~以上男子~、石神井(東京)~女子~と最大激戦地の代表校がそろって初顔で、いずれも侮れぬ布陣といわれるだけに興味深い。

前年、久留米工(福岡、男)が初出場で優勝という快挙を遂げているのでも判るとおり、最近の新鋭校の実力は高いのである。

このほか男子で大曲農(秋田)が10年ぶり、土佐(高知)が9年ぶり、関東学院(神奈川)が8年ぶり、女子で住吉学園(大阪)が7年ぶりなどと久々に勇姿を見せる各校も興味深い。

連続出場は和洋女(秋田)がついに15年と快記録を伸ばしたほか小諸商(長野、女)が13年とつづく

11年目を狙った中大付(東京)が惜しくも敗れ、男子の連続記録は小倉西(福岡)と聖光学院工(福島)の5年が最高と代った。

出場回数は涌谷(宮城、女)の23回が光るほか、男子で清水商(静岡)の21回が目立つ。これで同校は、新居浜工(愛媛=予選敗退)と並んでトップに立った。

予選で姿を消した主なチームは関東1位の日体荏原(東京)、四国1位の宇和島南(愛媛)、九州選抜1位の宇土(熊本)のほか湯沢(秋田)、麻生(茨城)、名城大付(愛知)~以上男子~、水海道二(茨城)、小平(東京)、明徳商(京都)~以上女子~など。

めずらしい記録としては、大分東(大分)の3年連続男女出場がある。

男子展望

久留米工追う実力派

まずパート別に有力校を拾い出してみよう。

Aパートは2連勝を狙う久留米工を追って氷見(富山)、熊本市商(熊本)、洛北(京都)、地元・日川(山梨)ら強豪が並ぶ。

久留米工にとっても、その道はけわしそうだ。

特に、北信越1位の氷見は手強そう。

氷見の緒戦・県岐商(岐阜)も東海2位の実績をもつ。

これに熊本市商がからむグループから脱け出したものが、ベストフォアに勝ちあがるとみてよいだろう。

ブロック優勝校が並ぶ

Bパートは、本命視されている中国1位の岩国工(山口)が抜きん出ている。

昨夏ベストフォア進出の自信も大きなものがあり、むしろその時の敗退が、いっそうの奮起につながっているようだ。

しかし、東北1位の聖光学院工(福島)、東海1位の四日市工(三重)とダークホースが並んでおり予断は許さない。

このほか、沖縄工(沖縄)の進境松山東(愛媛)、函館有斗(北海道)笠間(茨城)、添上(奈良)、鹿児島工(鹿児島)らがまとまっている。

実力互角、予断許さず

Cパートは実力互角。激しい展開となろう。

湯沢のカゲにかくれていたが実力派の大曲農(秋田)、強敵をなぎ倒してきた拓大一(東京)と名古屋市工(愛知)、上り坂の神埼農(佐賀)などのグループは特にもつれそう。

一方は、塩山商(山梨)がホームコートだけに負けられない。

大分東、仙台育英(宮城)らで楽な組み合わせではないが、上り調子と伝えられており、注目したい。

斗志を燃やす小倉西

Dパートは、前年準優勝の小倉西(福岡)が斗志を燃やしている。

ここを追って大阪を制した此花学院、伝統の関東学院(神奈川)、清水商(静岡)、スケールの大きい坂城(長野)らのほか佐世保北(長崎)、清水(千葉)、武庫工(兵庫)とひしめく。

青森(青森)、花巻北(岩手)の東北勢も粘り強いし、波乱ぶくみだ。

特に、清水、此花学院の試合ぶりを注目したい。

焦点に立つ岩国工

思い切ってベストエイトによる組み合わせを占ってみると久留米工・氷見—洛北・日川、聖光学工・四日市工—岩国工、拓大一・名古屋市工—塩山商・仙台育英、清水商・此花学院—清水・小倉西となるのではなかろうか。

こうしぼってみると、やはり今年は前評判の高い岩国工が焦点、とみてさしつかえなさそうだ。

女子展望

大谷、小松、山陽が激突

Aパートでは、大谷(大阪)が2連勝を目指しているが、2回戦で順当なら北信越1位の小松市女(石川)とぶつかる。

ここも一昨年優勝時に劣らぬ布陣だけに、この顔合わせの勝者へ中国1位の山陽女(広島)がからんで、ミニ決勝トーナメントの様相を呈す。

市邨学園(愛知)、小杉(富山)、神埼農(佐賀)、日川(山梨)小禄(沖縄)も好チームだが、大谷ら3強には一歩をゆずりそう。

町をあげての声援を背にしてい

る須賀川長沼（福島）の試合ぶりも興味深い。

買われる涌谷の安定

Bパートは、徳山（山口）、涌谷熊本市立（熊本）の3校が中心。とりわけ涌谷の安定が買われている。

熊本との星のつぶしあいの間げきを狙うのが函館女商（北海道）だ。

このほか、東京からすい星的に飛び出してきた石神井、夙川（兵庫）、京都精華（京都）、岐阜南（岐阜）がよさそう。岐阜南は東海2位の実績だけに、上位を狙って来るだろう。

ダークホースひしめく

Cパートは、ダークホース群だ東海1位の清水商（静岡）に、秋田和洋、栃木女の両名門、明倫（神奈川）、佐世保商（長崎）、青森西（青森）、甲府商（山梨）が顔を並べた。

順当なら和洋女、清水商の進出とみたいのだが、住吉学園（大阪）小林商（宮崎）も底力があるようだし、久々に姿をみせる栃木女の復活も期待されよう。

新居浜、昭和学が中心

Dパートは四国1位・新居浜商（愛媛）の呼び声が高い。

関東1位・昭和学院（千葉）との3回戦は、優勝争いにもひびいてくるカードだ。

このほか、大分東、小諸商、国体を前にしている暁（三重）、国分実業（鹿児島）らの存在がうるさく、簡単な経過をたどるとは思えない。

2連覇狙う大谷

準々決勝を争う8強をあえてピックアップすると大谷・小松市女・山陽女―市郡学園・神埼農、徳山・岐阜南―涌谷・熊本市立、和洋女・栃木女―清水商・青森西、大分東・暁―昭和学院・新居浜市商あたりに落ちつくのではないか。

そして、Aパートの3強に涌谷、清水商、大分東、昭和学院らのブロックチャンピオンそれに熊本市立、和洋、新居浜市商らの優勝経験校がはり出してくるとみたい。

次代荷う息吹きを

いずれにせよ、この1年長間の鍊磨を集約しての激突、一戦々々が新しい力となることは、過去の歴史がはっきりと物語っており、どのような熱斗、波乱がくりひろげられるか、考え及ぶところではないが、盛夏、炎天下のコンディショニングも、例年どおり、各試合を左右する大きなポイントとなるであろうし、いかに波へのるかも一つの決め手につながる。

モントリオール、さらにはモスクワオリンピックへとつながる次代のホープたちの、たくましい息吹きの感じられることを期して待つこと大である。

朝鮮大付と聖貞

韓国側代表校決まる

日韓高校交流の韓国代表校を決める第8回国勢総理盃争奪韓国中学・高校優秀校リーグ戦は、6月25日から6日間にわたりソウル運動場で行われ、男子は朝鮮大附属高、女子は聖貞高がそれぞれ優勝日本代表を待ちうけている。

なお、3校が参加した中学の部は男子が延禧、女子が昌文の優勝だった。

（高校男子順位）①朝鮮大附高4戦全勝②東星2勝1分1敗③円光商2勝2敗④全羅1勝2分1敗⑤能仁1分3敗

（同女子順位）①聖貞3戦全勝②忠州女商2勝1敗③釜山南女1勝2敗④慶福女商3勝

【京都協会・小西博喜氏提供】

第26回全日本高校選手権組み合せ

◆……男　　子……◆

- 久留米工（推・福岡）
- 県岐阜商（岐阜）
- 氷見（富山）
- 八幡工（滋賀）
- 熊本市商（熊本）
- 藤岡（群馬）
- 都城泉丘（宮崎）
- 浦和西（埼玉）
- 洛北（京都）
- 日川（山梨）
- 東根工（山形）
- 若狭（福井）
- 笠間（茨城）
- 修道（広島）
- 聖光学工（福島）
- 添上（奈良）
- 沖縄工（沖縄）
- 四日市工（三重）
- 浜田水産（島根）
- 函館有斗（北海道）
- 鹿児島工（鹿児島）
- 松山東（愛媛）
- 小松工（石川）
- 岩国工（山口）

- 大曲農（秋田）
- 坂出工（香川）
- 拓大一（東京）
- 神埼農（佐賀）
- 津山工（岡山）
- 名古屋市工（愛知）
- 城北（徳島）
- 塩山商（山梨）
- 那賀（和歌山）
- 大分東（大分）
- 国学院栃木（栃木）
- 柏崎工（新潟）
- 仙台育英（宮城）
- 青森（青森）
- 此花学院（大阪）
- 関東学院（神奈川）
- 坂城（長野）
- 佐世保北（長崎）
- 清水商（静岡）
- 清水（千葉）
- 武庫工（兵庫）
- 花巻北（岩手）
- 土佐（高知）
- 倉吉工（鳥取）
- 小倉西（福岡）

◆……女　　子……◆

- 大谷（推・大阪）
- 須賀川長沼（福島）
- 小松市女（石川）
- 小禄（沖縄）
- 深谷女（埼玉）
- 山陽女（広島）
- 小杉（富山）
- 池田（徳島）
- 日川（山梨）
- 市郡学園（愛知）
- 神埼農（佐賀）
- 米子南商（鳥取）
- 石神井（東京）
- 徳山（山口）
- 古賀（福岡）
- 夙川学院（兵庫）
- 岐阜南（岐阜）
- 新潟江南（新潟）
- 京都精華（京都）
- 麻生（茨城）
- 函館女商（北海道）
- 高松南（香川）
- 涌谷（宮城）
- 熊本市立（熊本）

- 和洋女（秋田）
- 小林商（宮崎）
- 城山（高知）
- 栃木女（栃木）
- 松江家政（島根）
- 甲府商（山梨）
- 守山女（滋賀）
- 住吉学園（大阪）
- 金川（岡山）
- 佐世保商（長崎）
- 青森西（青森）
- 清水商（静岡）
- 明倫（神奈川）
- 盛岡二女（岩手）
- 桐生女（群馬）
- 小諸商（長野）
- 大分東（大分）
- 添上（奈良）
- 暁（三重）
- 昭和学院（千葉）
- 粉河（和歌山）
- 国分実業（鹿児島）
- 武生商（福井）
- 米沢女（山形）
- 新居浜市商（愛媛）

第26回全日本高校選手権 各県予選記録(2)

★太字は代表校
★7月7日まで報告分

北海道

▼男子1回戦
函館東20—9駒大付
紋別北11—10室蘭栄
函館有斗26—7旭川工
釧路工20(延)17倶知安
札幌南17—8釧路江南
▽同準々決勝
釧路湖陵19—4函館東
札幌北陵12—11紋別北
函館有斗26—3釧路工
札幌南13—7室蘭東
▽同準決勝
釧路湖陵21—6札幌北陵
函館有斗20—7札幌南
▽同決勝
函館有斗14(延)13釧路湖陵
函館有斗は2年連続4度目の代表
▼女子1回戦(3試合)
釧路湖陵20—4紋別北
室蘭商3—2函館遺愛
恵庭南12—3釧路江南
▽同準決勝
釧路湖陵5—4室蘭商
函館商13—0恵庭南
▽同決勝
函館商13—7釧路湖陵
函館商は初出場

東北

◇山形県
▼男子決勝リーグ
東根工21—5寒河江
大石田16—10新庄工
東根工10—8真室川
大石田20—3寒河江
真室川15—10新庄工
東根工11—6大石田
新庄工15—9寒河江
大石田14—9真室川
東根工9(分)9新庄工
真室川21—8寒河江
【順位】①東根工②大石田③真室川④新庄工⑤寝河江=東根工は3年ぶり5度目の代表
▼女子決勝リーグ
米沢女10—6竹田女
米沢女21—1尾花沢
竹田女18—0尾花沢
【順位】①米沢女②竹田女③尾花沢=米沢女は3年ぶり5度目の代表

◇秋田県
▼男子予選リーグA組
羽後11—9秋田南
湯沢20—3大曲東
大曲東11—7秋田南
湯沢10—4羽後
湯沢5—3秋田南
羽後17—8大曲東
▽同B組
大曲9—5横手
大曲農16—12大曲
大曲農16—6横手
▽同決勝トーナメント1回戦
大曲農19—8羽後
大曲13—6湯沢
▽同決勝
大曲農14—6大曲
大曲農は10年ぶり5度目の代表
▼女子予選リーグA組
六郷15—1大曲東
大曲農19—2大曲東
大曲農11—4六郷
▽同B組(1試合)
和洋女18—3大曲
▽同決勝トーナメント1回戦
和洋女19—0六郷
大曲8—5大曲農
▽同決勝
和洋女14—1大曲
和洋女は15年連続17度目の代表

◇青森県
▼男子1回戦
鰺ケ沢17—10七戸
柏木農14—9板柳
青森11—7野辺地
青森商14—2五所工
十和田工25—7青森南
▽同準々決勝
三本木13—12鰺ケ沢
弘前南16—11柏木農
青森10—6青森東
青森商16—7十和田工
▽同準決勝
青森11—9三本木
青森商11—9弘前南
▽同決勝
青森14—4青森商
青森は2年ぶり15度目の代表
▼女子1回戦(3試合)
野辺地11—8三本木
鰺ケ沢15—0柏木農
七戸21—0青森南
▽同準決勝
青森西23—2鰺ケ沢
野辺地6—5七戸
▽同決勝
青森西4—2野辺地
青森西は6年連続6度目の代表

◇宮城県
▼男子1回戦
仙台三18—13築館
仙台24—9東北学院
仙台商7—3塩釜
榴ケ岡11—8電子
▽同2回戦
仙台育英14—9仙台三
古川工18—15古川商
古川12—10祇園寺
仙台一9—5仙台
仙台二9—6仙台商
宮工17(分)17一迫
東北19—13鶯沢工
宮水産34—4榴ケ岡
▽同準々決勝
仙台育英14—4古川工
古川10—7仙台一
仙台二8—5宮工
宮水産18—4東北
▽同準決勝
仙台育英8—3古川
宮水産21—10仙台二
▽同決勝
仙台育英18—7宮水産
仙台育英は4年連続4度目の代表
▼女子1回戦(3試合)
飯野川9—2一迫商
仙台女商13—10祇園寺
宮二女5—1宮一女
▽同準々決勝
涌谷15—1飯野川
宮三女13—4仙台女商
塩釜女7—6古川商
古川女6—2宮二女
▽同準決勝
涌谷10—5宮三女
古川女9—4塩釜女
▽同決勝
涌谷12—3古川女
涌谷は6年連続23度目の代表

北信越

◇富山県

▼男子1回戦（3試合）
有磯 11（分）11 富山北
小杉 14－2 滑川
雄山 14－11 新湊
▽同2回戦
氷見 23－0 有磯
高岡 12－11 富山東
伏木 19－9 富山中央
二上工 10－6 小杉
高岡商 19－4 富山工
八尾 15－8 富山
大沢野工 12－3 富山商
高岡日大 21－6 雄山
▽同準々決勝
氷見 33－4 高岡
伏木 15－9 二上工
高岡商 17－8 八尾
高岡日大 18－4 大沢野工
▽同準決勝
氷見 23－6 伏木
高岡日大 15（延）14 高岡商
▽同決勝
氷見 10－9 高岡日大
氷見は2年連続14度目の代表

▼女子1回戦（1試合）
高岡商 13－5 清光
▽同準々決勝
有磯 14－2 高岡商
富女短付 9－6 富山女
富山北 13－5 高岡
小杉 6－3 高岡女
▽同準決勝
有磯 17－1 富女短付
小杉 18－4 富山北
▽同決勝
小杉 6－5 有磯
小杉は2年連続2度目の代表

関東

◇栃木県

▼男子1回戦
足利工 25－3 葛生
足利商 12－11 宇都宮工
足利 15－3 藤岡
栃木農 10－9 烏山
▽同準々決勝
国学院栃木 26－10 足利工
足利商 27－14 矢板中央
石橋 12－9 足利
栃木農 13（延）12 馬頭
▽同準決勝
国学院栃木 23－7 足利商
栃木農 9－3 石橋
▽同決勝
国学院栃木 12－10 栃木農
国学院栃木は3年ぶり6度目の代表

▼女子1回戦（2試合）
佐野女 16－3 作新学院
矢板中央 11（延）6 藤岡
▽同準々決勝
栃木女 9－1 佐野女
馬頭 10－4 足利女
国学院栃木 31－1 足利商
小山城南 28－2 矢板中央
▽同準決勝
栃木女 13－4 馬頭
小山城南 11－8 国学院栃木
▽同決勝
栃木女 11－5 小山城南
栃木女は5年ぶり13度目の代表

◇埼玉県

▼男子1回戦
浦和南 24－8 八潮
草加 11－8 蓮田
城西大川越 20－10 大宮北
朝霞 25－5 浦和実業
桶川 17－16 秩父農工
川口北 21－3 春日部
聖望 18－9 秩父
▽同2回戦
浦和南 10－9 川口工
教育大坂戸 16－9 県立坂戸
菖蒲 20－7 城西大川越
浦和西 23－4 朝霞
浦和工 13－11 桶川
浦和市立 15－9 川口北
聖望 20－9 大宮
▽同準々決勝
浦和南 19－8 浦和工
浦和市立 25－4 草加
菖蒲 27－8 聖望
浦和西 16－6 教育大坂戸
▽同準決勝
浦和市立 6－5 浦和南
浦和西 12－5 菖蒲
▽同決勝
浦和西 11－8 浦和市立
浦和西は初出場

▼女子1回戦
深谷女 31－0 大宮北
秩父 10－1 行田女
朝霞 18－11 八潮
川口女 10－2 聖望
川口北 19－2 桶川
浦和西 12－6 熊谷女
浦和南 10－3 熊谷南
浦和市立 22－4 大宮嵐山
▽同準々決勝
深谷女 22－6 秩父
朝霞 4－2 川口女
川口北 10－1 浦和西
浦和市立 20－3 浦和南
▽同準決勝
深谷女 12－1 朝霞
浦和市立 6－4 川口北
▽同決勝
深谷女 11－5 浦和市立
深谷女は10年連続11度目の代表

◇群馬県

▼男子1回戦（Ⅱ準々決勝）
前橋商 18－6 桐生
前橋工 20－3 桐生工
上武一 34－9 吉井
藤岡 9－8 富岡
▽同準決勝
前橋工 8－6 前橋商
藤岡 8－7 上武一
▽同決勝
藤岡 8－7 前橋工
藤岡は初出場

▼女子1回戦（1試合）
下仁田 9－2 高崎市女

▽同準々決勝
群女短大付 9—5 前橋市女
高崎女 21—4 吉井
下仁田 12—5 前橋商
桐生女 22—5 前橋東商
▽可準決勝
群女短大付 13—4 高崎女
桐生女 14—3 下仁田
▽同決勝
桐生女 10—6 群女短大附
桐生女は3年連続7度目の代表

◇千葉県
▼男子予選ラウンド
清水 18—13 木更津
鶴舞 17—4 東邦
市川 16—13 市原
明徳 17—8 我孫子
▽同決勝リーグ
清水 28—5 鶴舞
明徳 20—9 市川
明徳 8—5 鶴舞
清水 23—3 市川
鶴舞 12(分)12 市川
清水 16—8 明徳
【順位】①清水②明徳③市川・鶴舞
‖清水は2年ぶり4度目の代表
▼女子予選ラウンド
佐原女 11—6 明徳
和洋 8—4 佐原女
東邦 18—4 小金
昭和学院 25—1 我孫子
▽同決勝リーグ
佐原女 12—5 和洋
昭和学院 15—2 東邦
昭和学院 14—2 和洋
佐原女 8—7 東邦
東邦 8—5 和洋
昭和学院 4—2 佐原女
【順位】①**昭和学院**②佐原女③東邦④和洋‖昭和学院は2年ぶり9度目の代表

◇神奈川県
▼男子予選トーナメント1回戦
法政工 8—7 日野
浅野 17—5 緑ケ丘
向岡工 19—5 相工大付
横商大付 24—7 茅ケ崎
相模原 16—10 横浜商
立野 不戦勝 平沼
東 24—5 翠嵐
市川崎 16—9 北陵
川和 19—7 磯子工
生田 没収試合 新城
▽同2回戦
関東学院 16—7 法政工
桜ケ丘 13—6 戸塚
神奈川工 23—9 市川崎工
桐蔭 16—4 浅野
向岡工 20—7 松田
横浜商工 27—5 大和
横商大付 没収試合 希望ケ丘
県商工 26—9 相模原
慶応 18—8 立野
相模台工 18—8 橘
多摩 不戦勝 鎌倉学園
東 33—3 三浦
南 12—7 市川崎
横須賀学院 19—5 逗子
川和 14—7 光陵
法政二 23—2 生田
▽同3回戦
関東学院 21—3 桜丘
桐蔭 15—8 神奈川工
横浜商工 21—10 向岡工
横商大付 12—10 県商工
慶応 19—7 相模台工
東 7—5 多摩
南 27—2 横須賀学
法政二 15—10 川和
▽同決勝リーグ進出校決定戦
関東学院 9—8 桐蔭
横浜商工 18—11 横商大付
東 10—5 慶応
南 12—8 法政二
▽同決勝リーグ
関東学院 9(分)9 横浜商工
南 10—6 東
関東学院 12—4 南
横浜商工 11—10 東
南 15—13 横浜商工
関東学院 14—6 東
【順位】①**関東学院**②南③横浜商工④東‖関東学院は8年ぶり8度目の代表
▼女子予選トーナメント1回戦
高浜 10—6 立野
北鎌倉 6—4 相模原
厚木商 18—2 橘
市川崎 19—4 北陵
県商工 4—3 生田
平沼 10(延)8 江南
大津 12—10 横須賀学
上溝 7—6 南
京浜 13—2 希望ケ丘
桜丘 7—6 日野
新城 没収試合 三浦
▽同2回戦
明倫 16—0 高浜
多摩 不戦勝 北鎌倉
市川崎 12—2 厚木商
東 7—2 県商工
高津 16—4 平沼
大津 8—7 上溝
京浜 10—2 桜丘
川和 6—3 新城
▽同決勝リーグ進出校決定戦
明倫 14—2 多摩
市川崎 10—5 東
高津 12—7 大津
京浜 10—1 川和
▽同決勝リーグ
明倫 12—6 市川崎
高津 6—5 京浜
明倫 12—3 京浜
市川崎 5—4 高津
市川崎 4—4 京浜
明倫 16—3 高津
【順位】①**明倫**②市川崎③高津④京浜‖明倫は3年連続3度目の代表

◇東京都
▼男子予選トーナメント1回戦
田無工 13—11 駿台
駒大高 19—10 西
深沢 不戦勝 駒込
三商 21—14 東大和
桜水商 不戦勝 両国
科学技術 不戦勝 農業
新宿 21—8 東
志村 20—7 江北
羽田工 25—14 武蔵丘
井草 11—5 五商
和和 16—2 富士
立川 35—6 清瀬
明星 18—16 国分寺
早大学院 不戦勝 墨田川
深川 12—10 富士森
鷺宮 18—6 豊多摩
東亜 不戦勝 化学工
雪ケ谷 16—9 小金井工
三宅 37—5 青山
広尾 17—7 永山
片倉 16—8 芝工大附
中大附 11—10 北園
教大附 15—12 忠生
東村山 11—10 佼成
成城 14—8 学大附
創価 18—6 白鷗
日野 不戦勝 駒場
石神井 15—12 杉並工
錦城 18—5 江東工
▽同2回戦
駒大高 16—6 田無工
駒込 13—12 練馬
三商 25—4 昭和一
江戸川 20—12 桜水商
科学技術 14—10 城北
府中 14—12 新宿
神代 22—6 志村
羽田工 13—6 井草
昭和 不戦勝 青山学院
立川 20—4 三鷹
明星 17—10 明正

早大学院 32—6 深川
鷲宮 9—7 東亜
農大一 16—9 雪谷
三宅 21—8 世田谷工
永山 13—6 武蔵
中大附 25—4 片倉
園芸 20—10 教大附
開成 14—5 北多摩
東村山 14—8 佼成
成城 14—9 日大二
創価 21—6 秋川
杉並 26—7 駒場
石神井 15—1 錦城

▽同3回戦

駒大高 8—2 練馬
江戸川 13—9 三商
府中 25—8 科学技術
羽田工 16—10 神代
昭和 14—7 立川
早大学院 21—16 明星
鷲宮 10—4 農大一
三宅 17—4 広尾
中大附 31—5 園芸
開成 7—6 東村山
創価 16—14 成城
杉並 0—0 石神井

▽同4回戦

拓大一 25—5 駒大高
府中 13—5 江戸川
羽田工 18—15 昭和
国立 9—8 早大学院
日体荏原 22—4 鷲宮
中大附 9—5 三宅
開成 22—5 創価
小岩 23—6 杉並

▽同決勝リーグ進出校決定戦

拓大一 16—9 府中
羽田工 13—11 国立
中大附 19—14 日体荏原
小岩 14—5 開成

▽同決勝リーグ

拓大一 14—11 小岩
中大附 14—12 羽田工
小岩 21—9 羽田工
拓大一 16—13 中大附
中大附 9(分)9 小岩
拓大一 20—10 羽田工

【順位】①拓大一②小岩③中大附④羽田工＝拓大一は初出場

▼女子予選トーナメント1回戦（2試合）

立教女 15—1 園芸
吉祥女 不戦勝 国分寺

▽同2回戦

石神井 18—1 保谷
神代 8—5 国立
四谷商 不戦勝 富士森
永山 6—4 鷺宮
雪ケ谷 5—4 日大二
五商 不戦勝 墨田川
福生 不戦勝 一商
三鷹 不戦勝 深川
日野 5—4 昭和
桜水商 不戦勝 杉並
江戸川 5—4 井草
小岩 不戦勝 富士
藤村 16—2 青山学院
立教女 13—4 目白学
農大一 不戦勝 府中東
日体桜華 7—4 向島商
学芸大附 10—7 深沢
二商 16—0 菊華
江東商 12—1 北多摩
豊多摩 7—5 清瀬
葛飾野 9—4 三商
佼成学園 11—8 広尾
吉祥女 6—2 西
練馬 22—0 赤羽商

▽同3回戦

石神井 10—3 神代
四谷商 10—3 永山
五商 5—3 雪谷
三鷹 12—1 福生
桜水商 9—4 日野
江戸川 4—3 小岩
藤村 5—4 立教女
日体桜華 22—1 農大一
二商 11—0 学芸大附
江東商 15—1 豊多摩
葛飾野 11—10 佼成学園
吉祥女 10—7 赤羽商

▽同4回戦

石神井 6—3 三宅
四谷商 10—5 五商
桜水商 14—6 三鷹
府中 7—2 江戸川
藤村 10—9 桐朋
二商 9—4 日体桜華
江東商 7—6 葛飾野
小平 6—3 吉祥女

▽同決勝リーグ進出校決定戦

石神井 8—5 四谷商
府中 15—2 桜水商
藤村 8—6 二商
小平 4—3 江東商

▽同決勝リーグ

石神井 5—4 府中
藤村 6(分)6 小平
府中 11—4 小平
石神井 5—4 藤村
藤村 6—3 府中
石神井 3—2 小平

【順位】①石神井②藤村③府中④小平＝石神井は初出場

東海

◇三重県

▼男子決勝リーグ

四日市工 30—5 高田
四日市工 23—6 尾鷲
尾鷲 22—10 高田

【順位】①四日市工②尾鷲③高田＝四日市工は4年連続17度目の代表

▼女子決勝リーグ

四日市 3(分)3 暁
暁 23—0 上野
四日市 27—10 上野

【順位】①暁②四日市③上野＝暁は2年ぶり3度目の代表

◇静岡県

▼男子1回戦

三島南 25—18 春野分校
静岡工 18—16 吉原商
星陵 7—5 土肥
御殿場南 22—8 静清工
清水東 16—5 裾野
富士 28—2 天竜林業

▽同2回戦

静岡農 23—7 三島南

静岡東 11―6 二俣
沼津工 18―7 静岡工
清水商 24―2 星陵
御殿場 9―7 御殿場南
気賀 24―14 修善寺工
清水東 7―4 沼津東
浜松南 10―3 富士

▽同準々決勝
静岡農 20―11 静岡東
清水商 18―8 沼津工
御殿場 15―5 気賀
浜松南 16―6 清水東

▽同準決勝
清水商 9―8 静岡農
御殿場 8―5 浜松南

▽同決勝
清水商 8―7 御殿場
清水商は2年ぶり21度目の代表

▼女子1回戦
藤枝西 10―2 土肥
清水西 12―3 沼津女
御殿場 23―8 周智
静岡城北 16―5 富士宮東
清水女 6―4 二俣

▽同準々決勝
清水商 20―3 藤枝西
清水西 7―3 浜松南
静岡城北 4―2 御殿場
吉原 9―3 清水女

▽同準決勝
清水商 6―4 清水西
静岡城北 4―1 吉原

▽同決勝
清水商 4―2 静岡城北
清水商は3年連続4度目の代表

近畿

◇兵庫県

▼男子予選トーナメント1回戦
柏原 18―8 神戸北
明石商 15―8 育英
県工 19―3 甲陽
鳴尾 24―4 小野工
兵庫 24―1 川西緑台

▽同2回戦
私立神港 19―14 柏原
鈴蘭台 20―8 西宮東
明石 37―2 香住
県商 26―2 佐用
北須磨 15―14 鳴尾
武庫工 16―5 兵庫
西宮北 20―12 御影工
県伊丹 25―9 村野工
明石南 12―7 明石商
尼崎小田 14―10 市神戸商
三田 20(延)17 市須磨
市西宮 14―12 東播工
尼崎工 19―9 市神港
報徳 16―11 県工
有馬 23―6 宝塚
滝川 20―5 明石北

▽同3回戦
西宮北 8―5 私神港
鈴蘭台 20―7 市西宮
県伊丹 16―14 尼崎工
明石南 8(分)8 明石
抽せんで明石南の勝ち
報徳 14―7 県南
有馬 11(延)9 尼崎小田
三田 19―9 北須磨
武庫工 11―10 滝川

▽同決勝リーグ進出校決定戦
西宮北 13―12 鈴蘭台
明石南 20―4 県伊丹
報徳 18―12 有馬
武庫工 17―9 三田

▽同決勝リーグ
明石南 18―12 西宮北
武庫工 15―14 報徳
武庫工 15―8 西宮北
明石南 15―14 報徳
報徳 15(分)15 西宮北
武庫工 11―7 明石南
【順位】①武庫工②明石南③報徳・西宮北＝武庫工は2年ぶり3度目の代表

▼女子予選トーナメント1回戦
県商 11―2 西宮東
明石北 10―2 市西宮
鈴蘭台 19―2 尼崎小田
県伊丹 3―1 明石
神戸女商 11―0 園田
明石南 16―0 鳴尾
市神戸商 8―5 西宮北
市神港 17―2 市飾磨
県尼崎 16―2 市須磨

▽同2回戦
県商 8―6 明石南
明石北 14―4 須磨女
鈴蘭台 9―5 近大豊
甲子園 10―1 県伊丹
夙川 15―2 神戸女商
明石南 10―3 柏原
市神港 18―3 市神戸商
北条 7―1 県尼崎

▽同決勝リーグ進出校決定戦
県商 12―5 明石北
夙川 14―5 明石南
市神港 12(延)9 北条
鈴蘭台 5(分)5 甲子園
抽せんで鈴蘭台の勝ち

▽同決勝リーグ
鈴蘭台 10―5 県商
夙川 13―2 市神港
夙川 10―2 県商
鈴蘭台 7―4 市神港
県商 8(分)8 市神港
夙川 2―1 鈴蘭台
【順位】①夙川②鈴蘭台③県商・市神港＝夙川は4年ぶり5度目の代表

◇奈良県

▼男子1回戦
郡山 27―2 東大寺
天理 13―5 奈良工
畝傍 11―6 桜井商
添上 29―10 橿原学院
榛原 17―6 生駒
十津川 17―1 正強

▽同準々決勝
奈良 17―4 天理
郡山 15―13 畝傍
添上 34―4 一条
榛原 14―12 十津川

▽同準決勝
奈良 19―12 郡山
添上 27―7 榛原

▽同決勝
添上 16(延)12 奈良
添上は2年連続15度目の代表

▼女子1回戦（1試合）
一条 22―3 帝塚山

▽同準々決勝
短大付 6―5 桜井商
添上 不戦勝 榛原
郡山 13―4 十津川
一条 10(分)10 生駒
抽せんで一条の勝ち

▽同準決勝
添上 15―5 郡山
一条 12―5 短大付

▽同決勝
添上 8―4 一条
添上は4年連続8度目の代表

◇滋賀県（最終予選）

▼男子1回戦（＝準決勝）
米原 16―9 安曇川
八幡工 13―10 彦根東

▽同3位決定戦
彦根東 13―12 安曇川

▽同決勝
八幡工 16―13 米原
八幡工は3年連続8度目の代表

▼女子1回戦（＝準決勝）
彦根西 12―9 愛知
守山女 16―3 米原

▽同決勝
守山女 9―6 彦根西
守山女は2年ぶり4度目の代表
（注）1次予選の記録は前号既報

◇和歌山県

▼男子1回戦（3試合）

粉河16－11吉備
耐久8－7新高
箕島18－17市和歌山商
▽同準々決勝
那賀26－6笠田
県和歌山商22－5粉河
御坊商工18－6耐久
桐蔭13－8箕島
▽同準決勝
那賀6－3県和歌山商
御坊商工9－2桐蔭
▽同決勝
那賀5－4御坊商工
那賀は7年ぶり10度目の代表
▼女子予選リーグA組
粉河15－1耐久
県和歌山商9－5耐久
粉河15－1県和歌山商
▽同B組
笠田8－5吉備
箕島13－6吉備
笠田6－1箕島
▽同C組
御坊商工10－3貴和
新宮7－4貴和
新宮5－2御坊商工
▽同決勝リーグ
粉河8－1笠田
新宮5－4笠田
粉河11－4新宮
【順位】①粉河②新宮③笠田＝粉河は8年連続8度目の代表

◇大阪府（1次及び2次予選）

▼男子1次予選・1回戦
長尾11－9泉南
生野工15－13阿倍野
泉大津12－8門真
阪南 不戦勝 北淀
▽同2回戦
豊中14－3長尾
浪商17－8登美丘
摂津9－3寝屋川
住吉20－13藤井寺
大阪学院14－5東豊中
北陽17－12教付池田
池田10－8生野
八尾8－6清風
北野13－8成器
扇町 不戦勝 四条畷
泉陽17－6茨木
春日丘14－6枚方
食産15－14貝塚南
三国ケ丘27－1高津
富田林17－4天王寺
長野31－7生野工
泉大津16－14鳳
都島工12－8三島
勝山16－12和泉
茨木工12－11市立工芸
比花学院21－8堺東
佐野工28－15東住吉
岸和田22－3東淀川
初芝18－6大阪市立
箕面東 没収試合 淀川工
箕面17－5山本
千里14－6関西大倉
泉北18－9羽曳野
花園14－6科学技術
桃山 不戦勝 八尾東
堺工15－9上宮
大阪商10－12阪南
▽同最終予選進出校決定戦
豊中14－7浪商
摂津17－5住吉
北陽12－9大阪学院
北野18－5扇町
春日丘11－9泉陽
三国ケ丘14－10食産
富田林19－9長野
都島工18－9泉大津
勝山26－4茨木工
比花学院18－8佐野工
初芝29－8岸和田
箕面29－7箕面東
泉北17－7千里
花園21－19桃山
大商18－14堺工
八尾22－4池田
▽同2次予選・東ブロック1回戦
浪商26－3追手門
枚方9－7寝屋川
四条畷10－6科学技術工
関西大倉5－2高津
門真17－7城東工
▽同勝者2回戦
浪商11－10大阪市立
枚方20－4淀川工
四条畷13－12茨木工
門真17－5関西大倉
▽同敗者1回戦（1試合）
城東工8－6高津
▽同2回戦
大阪市立7－6寝屋川
淀川工 不戦勝 追手門
茨木工15－1城東工
▽同勝者3回戦
科学技術工14－10関西大倉
枚方9－7浪商
四条畷8－7門真
▽同敗者3回戦
科学技術工10－7茨木工
大阪市立19－3淀川工
▽同4回戦
浪商18－10科学技術工
大阪市立20－5門真
▽同敗者5回戦
大阪市立11－9浪商
▽同勝者4回戦（最終予選進出第1代表決定戦）
枚方12－5四条畷
▽同敗者6回戦（最終予選進出第2代表決定戦）
四条畷6－5大阪市立
▽同南ブロック予選トーナメント1回戦（3試合）
鳳16－8和泉
長野21－8堺東
羽曳野 没収試合 貝塚南
▽同2回戦
三国丘17－11鳳
岸和田18－8成器
長野21－14堺工
泉大津28－15泉南
初芝31－10羽曳野
泉陽15－8金岡
佐野工18－16登美丘
住吉16－9生野
▽同決勝リーグ進出校決定戦
長野27－12泉大津
初芝22－11泉陽
佐野工15－12住吉
三国ケ丘22－10岸和田
▽同決勝リーグ
長野19－16初芝
佐野工22－8三国ケ丘
初芝15－12三国ケ丘
長野24－12佐野工
佐野工12－10初芝
長野24－20三国ケ丘
【順位】①長野②佐野工＝以上最終予選へ進出③初芝④三国ケ丘
▽同北ブロック予選トーナメント1回戦
扇町10－8北野
東豊中 不戦勝 桜塚
豊中8－2箕面
大教池田12－6東淀川
北淀8－2池田
箕面学園8－5箕面東
▽同2回戦
千里14－6扇町
豊中25－5東豊中
北淀11－5大教池田
大阪学院19－7箕面学園
▽同決勝リーグ進出校決定戦
豊中17－4千里
大阪学院6－4北淀
▽同1回戦敗者による復活1次戦
池田9－1東淀川
▽同2次戦
北野10－9箕面
池田15－4箕面東
▽同3次戦（決勝リーグ進出校決定戦）
北野10－7池田

▽同決勝リーグ
豊中 20—7 大阪学院
豊中 9—8 北野
大阪学院 15—10 北野
【順位】①豊中②大阪学院＝以上最終予選へ進出③大阪学院
▽同中ブロック1回戦
阿倍野 8—7 山本
清風 18—11 上宮
花園 20—6 生野
桃山 18—11 東住吉
阪南 13—12 天王寺
▽同2回戦
八尾 20—6 阿倍野
清風 12—4 市立工芸
桃山 15—13 花園
勝山 18—8 阪南
▽同最終予選進出校決定戦
清風 17—12 八尾
桃山 19—12 勝山
▼女子1次予選・1回戦
天王寺 33—0 扇町
城南 9—4 泉北
堺東 11—3 豊中
高津 10—1 清友
八尾 15—2 生野
箕面 14—2 梅花
東淀川 9—2 山本
長野 7—5 東大阪
▽同2回戦
鶴見商 8—2 天王寺
摂津 不戦勝 泉大津
北淀 15—2 浪商
八尾 11—7 寝屋川
箕面 6—3 池田
桜塚 10—7 三島
三国ケ丘 4—2 大東
四天王寺 12—6 城南
門真 16—2 堺東
春日丘 15—1 福島女子
鳳 8—3 女短大付
和泉 5—4 東淀川
長野 12—5 東住吉
枚方 18—0 岸和田
愛泉 16—3 食産
住吉学園 21—2 高津
▽同3回戦
鶴見商 13—7 摂津
北淀 9—2 八尾
箕面 9—3 桜塚
四天王寺 9—2 三国ケ丘
門真 9—5 春日丘
和泉 6—5 鳳
枚方 12—1 長野
住吉学園 6(延)5 愛泉
▽最終予選進出校決定戦
鶴見商 10—3 北淀
四天王寺 8—4 箕面
門真 6—5 和泉
住吉学園 10—0 枚方
▽参考記録
大谷(推) 6—4 住吉学園
大谷 5—4 鶴見商
▼同2次予選・東ブロック予選ラウンド1回戦(1試合)
寝屋川 22—2 大東
▽同決勝リーグ進出校決定戦
春日丘 16—0 三島
枚方 10—5 高津
摂津 7—4 寝屋川
▽同決勝リーグ
枚方 6—3 春日丘
摂津 7—2 枚方
春日丘 8—5 摂津
【順位】①摂津＝最終予選へ進出②春日丘③枚方
▽同南ブロック1回戦(3試合)
堺東 15—7 岸和田
泉北 16—1 生野
鳳 7—6 愛泉
▽同2回戦
和泉 15—2 堺東
泉北 3—2 三国ケ丘
長野 22—4 貝塚南
鳳 26—3 金岡
▽同準決勝
和泉 7—3 泉北
鳳 6—5 長野
▽同決勝(勝者が最終予選進出)
鳳 8—6 和泉
▽同北ブロック予選リーグA組
梅花 4—2 池田
箕面 9—6 梅花
箕面 7—3 池田
▽同B組
北淀 12—3 淀商
東淀川 15—7 淀商
北淀 16—3 東淀川
▽同C組
福島女子 7—5 桜塚
桜塚 20—7 豊中
福島女子 14—9 豊中
▽同決勝リーグ
箕面 6(分)6 北淀
箕面 没収試合 福島女子
北淀 没収試合 福島女子
【順位】①箕面・北淀③福島女子
▽同決勝再試合(勝者が最終予選へ進出)
北淀 10—6 箕面
▽同中ブロック予選リーグA組
八尾 6—4 東住吉
八尾 9—0 清友
清友 4—2 東住吉
▽同B組
城南 11—3 天王寺
城南 16—4 女短大付
天王寺 7—5 女短大付
▽決勝(勝者が最終予選へ進出)
城南 9—1 八尾
(注)男女最終予選の記録は未着

中国

◇岡山県
▼男子1回戦
津山工 19—6 矢掛
操山 15—7 芳泉
倉敷商 9—8 岡山工
水島工 22—6 津山
津山商 11—8 天城
邑久 11—10 金川
成羽 12(分)12 大安寺
抽せんで成羽の勝ち
▽同準々決勝
倉敷工 21—7 倉敷南
津山工 22—4 操山
倉敷商 19—3 水島工
邑久 15—9 津山商
倉敷工 23—9 成羽
▽同準決勝
津山工 18—10 倉敷商
倉敷工 18—13 邑久
▽同3位決定戦
邑久 21—12 倉敷商
▽同決勝
津山工 14—8 倉敷工
津山工は初出場
▼女子準々決勝(＝1回戦)
金川 16—4 津山
操山 不戦勝 落合
津山商 10—2 大安寺
真備 21—2 青陵
▽同準決勝
金川 10—3 操山
真備 18—4 津山商
▽同3位決定戦
津山商 11—3 操山
▽同決勝
金川 9—6 真備
金川は2年連続2度目の代表

◇鳥取県
▼男子予選リーグA組
境 16—13 米子東
境工 14—10 境
境工 10(分)10 米子東
▽同B組
倉吉工 12—2 倉吉産業
倉吉産業 15—8 倉吉東
倉吉工 19—5 倉吉東
▽同決勝リーグ
倉吉工 19—9 境
境工 18—7 倉吉産業
境 13(延)11 倉吉産業

倉吉工 21―9 境工
境工―境、倉吉工―倉吉産業は予選リーグの記録を適用
【順位】①倉吉工②境工③境④倉吉産業＝倉吉工は4年連続4度目の代表

▼女子決勝リーグ
米子南商 13―2 倉吉産業
米子南商 11―7 倉吉西
倉吉西 8―7 倉吉産業
【順位】①米子南商②倉吉西③倉吉産業＝米子南商は2年連続2度目の代表

四国

◇愛媛県

▼男子1回戦
新居浜工 22―4 松山商
宇和島南 23―3 松山北中島
新居浜東 10―8 松山西
新田 19―11 今治工
吉田 11―9 松山北
今治西 11―5 松山工
今治南 11―10 松山南
松山東 14―8 新居浜商
▽同準々決勝
宇和島南 8―4 新居浜工
新田 12―8 新居浜東
今治西 13(延)10 吉田
松山東 21―4 今治南
▽同準決勝
宇和島南 20―8 新田
松山東 13―8 今治西
▽同決勝
松山東 11―8 宇和島南
松山東は4年ぶり2度目の代表

▼女子1回戦
西条 17―1 明徳
伊予農 6―2 新居浜西
松山西 17―2 今治西
土居 11―2 東温
新居浜東 8―1 大島
今治南 17―6 大州農
▽同準々決勝
新居浜商 16―4 西条
松山西 20―6 伊予農
新居浜東 5―4 土居
松山商 11―2 今治南
▽同準決勝
新居浜商 21―1 松山西
松山商 7―2 新居浜東
▽同決勝
新居浜商 10―6 松山商
新居浜商は5年連続8度目の代表

◇香川県

▼男子予選トーナメント1回戦
東 12―7 丸亀
南 10―7 多度津工
高松一 11―3 尽誠
高松 11―2 土庄
▽同決勝リーグ進出校決定戦
三本松 21―5 東
工芸 15―4 南
高松商 10―6 高松一
坂出工 22―6 高松
▽同決勝リーグ
三本松 21―5 工芸
坂出工 17―12 高松商
坂出工 15―5 工芸
三本松 18―6 高松商
坂出工 9―8 三本松
高松商 7―6 工芸
【順位】①**坂出工**②三本松③高松商④工芸＝坂出工は2年連続9度目の代表

▼女子1回戦(2試合)
三本松 11―4 高松
高松南 9―2 高松商
▽同準決勝
高松一 13(延)11 三本松
高松南 8―7 高松中央
▽同決勝
高松南 10―5 高松一
高松南は初出場

九州

◇宮崎県

▼男子1回戦
宮崎電子 27―14 宮崎西
都城工 11―8 宮崎工
日南工 23―8 小林工
都城商 21―6 延岡
日南 13―8 日向工
都城西 13―8 宮崎南
▽同準々決勝
泉ケ丘 22―9 宮崎電子
日南工 14―5 都城工
都城商 21―12 都城西
西都商 15―10 日南
▽同準決勝
泉ケ丘 11(延)10 日南工
西都商 13―10 都城商
▽同決勝
泉ケ丘 12―5 西都商
泉ケ丘は2年連続5度目の代表

▼女子予選ラウンド
泉ケ丘 10―5 延岡
西都商 11―8 都城西
日南振徳商 21―3 宮崎女
小林商 20―3 都城商
▽同決勝リーグ
西都商 9―6 泉ケ丘
泉ケ丘 13―7 日南振徳商
西都商 18―4 日南振徳商
小林商 21―3 日南振徳商
小林商 15―7 泉ケ丘
小林商 19―10 西都商
【順位】①**小林商**②西都商③泉ケ丘④日南振徳商＝小林商は3年連続4度目の代表

◇大分県

▼男子1回戦(3試合)
日田商 19―3 国東
鶴見丘 16―9 大分商
鶴崎工 24―6 雄城台
▽同準決勝
電波 19―6 国東農
大分東 29―1 鶴見丘
鶴崎工 ―
日田商 ―
▽同準決勝
鶴崎工 ― 日田商
大分東 ― 電波
▽同3位決定戦
日田商 10―8 電波
▽同決勝
大分東 9―8 鶴崎工
大分東は3年連続4度目の代表

▼女子決勝リーグ
大分東 14―2 玖珠農
青山 19―6 中津北
大分東 7―3 青山
玖珠農 10―4 中津北
青山 17―8 玖珠農
大分東 11―0 中津北
【順位】①**大分東**②青山③玖珠農④中津北＝大分東は4年連続9度目の代表

◇佐賀県

▼男子予選リーグAパート
神埼農 11―8 佐賀農
佐賀農 21―8 佐賀東
神埼農 16―5 佐賀東
▽同Bパート
佐賀商 13―8 佐賀西
神埼 13―10 鹿島実
佐賀西 10―6 鹿島実
神埼 14―10 佐賀西
佐賀商 22―13 鹿島実
佐賀商 18―11 神埼
▽同決勝リーグ
神埼農 14―9 神埼
佐賀農 7(分)7 佐賀商
佐賀農 14―8 神埼
神埼農 8(分)8 佐賀商
神埼農―佐賀農、佐賀商―神埼は予選リーグの記録を適用
【順位】①**神埼農**②佐賀商③佐賀農④神埼＝神埼農は初出場

▼女子決勝リーグ

佐賀女 15―5 嬉野商
神埼農 20―1 佐賀東
佐賀女 12―2 佐賀東
神埼農 20―0 嬉野商
嬉野商 3―2 佐賀東
神埼農 9―5 佐賀女

【順位】①神埼農②佐賀女③嬉野商④佐賀東＝神埼農は9年連続9度目の代表

◇熊本県

▼男子1回戦

東海二 12―10 熊本
天草 20―8 八代
蘇陽 24―5 専大玉名
第一工 28―18 真和
球磨商 10―8 小川工
マリスト 24―13 御船
熊本市立 35―9 熊本商
熊本市商 35―8 八代農
鎮西 19―13 天草工
水俣工 19―10 菊池農
第二 23―5 天草農
河浦 9―6 商大付
九州学院 15―12 水俣
八代工 15―12 大矢野

▽同2回戦

宇土 23―14 東海二
天草 26―9 蘇陽
第一工 22―7 球磨商
熊本市立 19―13 マリスト
熊本市商 26―6 鎮西
水俣工 11―6 第二
九州学院 18―8 河浦

▽同準々決勝

済々黌 22―9 八代工
宇土 17―11 天草
第一工 23―16 熊本市立
熊本市商 18―12 水俣工
済々黌 8―7 九州学院

▽同準決勝

宇土 13―11 第一工
熊本市商 24―11 済々黌

▽同決勝

熊本市商 15―13 宇土

熊本市商は2年連続14度目の代表

▼女子1回戦

八代農 12―10 大矢野
熊本市商 不戦勝 松橋
鎮西 26―6 信愛
菊池農 9(分)9 熊本商

ペナルティスローコンテストの結果、菊池農の勝ち

▽同2回戦

熊本女商 19―2 八代農
九州女 11―5 牛深
松島商 12―11 鹿本商工
天草農 10―0 熊本市商
天草 8―7 鎮西
水俣 8―7 尚絅
球磨商 14―6 倉岳
熊本市立 20―1 菊池農

▽同準々決勝

熊本女商 27―1 九州女
松島商 13―12 天草農
天草 8―7 水俣
熊本市立 12―4 球磨商

▽同準決勝

熊本女商 22―6 松島商
熊本市立 20―6 天草

▽同決勝

熊本市立 15―8 熊本女商

熊本市立は2年ぶり20度目の代表

◇沖縄県

▼男子1回戦

八重農 12―7 中部工
北山 17―14 コザ
糸満 13―11 南部農
八重山 22―9 宮古工
知念 21―7 那覇工
浦添 18―7 読谷
昭薬大付 13―12 真和志
豊見城 33―8 北農

▽同2回戦

八重山 24―17 小禄
興南 13―9 糸満
北山 18―9 那覇
首里 18―4 八重農
沖縄工 13―6 知念
浦添 28―11 名護
前原 22―15 昭薬大付
豊見城 18―14 沖縄

▽同準々決勝

北山 19―13 首里
興南 18―14 八重山
沖縄工 23―7 浦添
豊見城 17(延)13 前原

▽同準決勝

沖縄工 22―15 豊見城
興南 13(延)12 北山

▽同決勝

沖縄工 14―9 興南

沖縄工は初出場

▼女子1回戦

那覇 10―6 豊見城
首里 13―4 前原
糸満 10―8 コザ
宜野座 17―6 真和志
八重山 21―5 読谷
宮古農 8―2 本部
宮古工 13―5 南部商
知念 14―1 浦添商

▽同2回戦

小禄 14―2 那覇
首里 23―3 沖縄
那覇商 13―1 糸満
中部商 13―11 宜野座
興南 11―3 宮古農
浦添 7―6 八重
北山 18―5 宮古工
知念 26―1 名護

▽同準々決勝

小禄 5―4 首里
那覇商 4―3 中部商
興南 7―5 浦添
知念 8―6 北山

▽同準決勝

知念 5―3 興南
小禄 9―2 那覇商

▽同決勝

小禄 9(延)6 知念

小禄は4年連続8度目の代表

◇長崎県

▼男子予選トーナメント1回戦

西彼杵 16―7 佐世保東商
鹿町工 26―6 造船
西海 17―6 佐世保工定
佐世保西 19―6 長崎北

▽同決勝リーグ進出校決勝戦

長崎工 23―6 西彼杵
日大高 13―11 西海
口加 12―6 鹿町工
佐世保北 12―7 佐世保西

▽同決勝リーグ

長崎工 15―11 口加
佐世保北 25―7 日大高
長崎工 19―6 日大高
佐世保北 14―9 口加
佐世保北 10―8 長崎工
口加 18―6 日大高

【順位】①佐世保北②長崎工③口加④日大高＝佐世保北は3年ぶり5度目の代表

▼女子予選ラウンド(3試合)

佐世保北 10―3 日大高
長崎北 11―2 佐世保女
西彼杵 6―5 島原農

▽同決勝リーグ

佐世保商 9―2 佐世保北
西彼杵 7―4 長崎北
佐世保商 10―4 長崎北
佐世保北 6(分)6 西彼杵
佐世保商 21―2 西彼杵
長崎北 6―4 佐世保北

【順位】①佐世保商②西彼杵③長崎北＝佐世保商は2年連続7度目の代表

(注)この特集は結果未着の県もありますが今月号で打ち切り。(18頁に関連記事)。

北海道

函館勢 釧路湖陵かわす

第26回北海道高校選手権は6月21、22の両日、釧路市厚生年金体育館を主会場にして行われ、13校が参加した男子は、函館有斗が釧路湖陵を延長後半に辛くも逆転2年連続4度目の優勝を遂げた。

7校による女子は、函館商が釧路湖陵を後半に突き放し初優勝。

（決勝以外の試合記録は8頁・全日本高校選手権予選「北海道」の項に同じ）

▽男子決勝

函館有斗 14（6-6、5-5、1-2、2-0）13 釧路湖陵

▽女子決勝

函館商 13（4-3、9-4）7 釧路湖陵

東北

涌谷 和洋の6連勝阻む

第28回東北高校選手権は6月27日から29日までの3日間、福島県郡山市総合体育館に6県から男女各2校の代表が集まり開かれた。

男子は、やはりインター・ハイ代表校が強く、予想どおりの展開から、地元・聖光学院工（福島）が花巻北（岩手）、東根工（山形）、大曲農（秋田）をなぎ倒し、2年ぶり2度目の優勝を飾った。

女子は、今年も宿敵同士・涌谷（宮城）×和洋女（秋田）の対決から涌谷が後半、手固くリードを奪い10年ぶり16度目の優勝を遂げるとともに、和洋女の6連覇を阻んだ

▽男子1回戦

(学)石川（福島）15（5-5、10-6）11 大石田（山形）

青森（青森）13（4-4、9-6）10 盛岡一（岩手）

聖光学工（福島）15（8-4、7-5）9 宮城水産（宮城）

大曲（秋田）16（6-2、10-3）5 青森商（青森）

▽同準々決勝

大曲農（秋田）19（8-1、11-1）2 (学)石川

仙台育英（宮城）20（9-3、11-5）8 青森

聖光学院工 10（6-3、4-6）9 花巻北（岩手）

東根工（山形）14（5-6、9-6）12 大曲

▽同準決勝

大曲農 10（4-3、6-4）7 仙台育英

聖光学院工 20（7-4、13-1）5 東根工

▽同決勝

聖光学院工 13（6-5、7-3）8 大曲農

▽女子1回戦

花巻南（岩手）11（5-3、6-1）4 野辺地（青森）

竹田女（山形）11（4-2、7-5）7 福島女（福島）

大曲（秋田）7（2-1、5-4）5 盛岡二（岩手）

青森西（青森）7（3-2、4-2）4 米沢女（山形）

▽同準々決勝

和洋女（秋田）9（5-2、4-2）4 花巻南

古川女（宮城）14（7-1、7-3）4 竹田女

須賀川長沼（福島）9（4-0、5-1）1 大曲

涌谷（宮城）8（1-2、7-2）4 青森西

▽同準決勝

和洋女 5（3-1、2-0）1 古川女

涌谷 9（4-0、5-3）3 須賀川長沼

▽同決勝

涌谷 6（2-2、4-2）4 和洋女

北信越

小松市女 5連勝遂ぐ

第11回北信越高校選手権は6月21、22日の両日、男子は氷見高校体育館、女子は有磯高校体育館にて5県の代表各10校が参加して行われた。

男子は連勝を狙う氷見（富山）が順調に勝ち進み、同県の日大高岡を決勝で降し2年連続3度目の制覇。

女子も小松市女（石川）がいぜん強味をみせ、5年連続6度目の優勝を飾った。

▽男子1回戦（2試合）

羽水（福井）13（7-3、6-3）6 中越（新潟）

氷見（富山）24（13-3、11-4）7 上田（長野）

▽同準々決勝

小松工（石川）22（13-3、9-6）9 羽水

日大高岡（富山）19（8-5、11-2）7 坂城（長野）

若狭（福井）18（10-2、8-7）9 泉丘（石川）

氷見 18（7-1、11-4）5 柏崎工（新潟）

▽同準決勝

氷見 17（8-3、9-5）8 若狭

日大高岡 16（7-3、9-9）12 小松工

▽同決勝

氷見 12（6-4、6-5）9 日大高岡

▽女子1回戦（2試合）

有磯（富山）14（7-1、7-1）2 巻（新潟）

新潟江南（新潟）13（9-1、4-2）3 高志（福井）

▽同準々決勝

全日本高校予選・〆切後到着分

◇**福島県**

▼男子1回戦

福島 12―11 須賀川長沼

岩瀬農 15―5 内郷

南会津 22―12 安積商

好間 15―9 小野

郡山西工 17―10 若松一

▽同準々決勝

安積 17―5 須賀川長沼

(学)石川 12―7 岩瀬農

好間 21―12 南会津

聖光学院工 17―3 郡山西工

▽同準決勝

(学)石川 8―7 安積

聖光学院工 22―14 好間

▽同決勝

聖光学院工 11―8 (学)石川

聖光学院工は5年連続7度目の代表

▼女子1回戦

本宮 8―6 安積商

日本女工 14―2 福島西女

福島女 20―5 安積女

東白川農商 5―4 小野

石川 7―5 小高

▽同準々決勝

須賀川長沼 17―0 本宮

郡山女 11―8 日本女工

福島女 10―6 東白川農商

石川 10―4 緑ケ丘女

▽同準決勝

須賀川長沼 8―3 郡山女

福島女 7―6 石川

▽同決勝

須賀川長沼 6―5 福島女

須賀川長沼分校は3年ぶり2度目の代表。

有磯 11（6―5 6―4）10 小諸商（長野）
武生商（福井） 15（8―2 7―2）4 松任（石川）
小杉（富山） 12（7―1 5―4）5 美須々ケ丘（長野）
小松市女（石川） 12（7―3 5―3）6 新潟江南

▽同準決勝
有磯 12（4―3 8―0）3 武生商
小松市女 9（3―2 6―1）3 小杉

▽同決勝
小松市女 10（6―1 4―1）2 有磯

―東海―
四日市工 三重に初栄冠

第22回東海高校選手権は6月21、22の2日間、静岡・清水市立商業球技場に4県から男女2校づつが代表を送って行われた。

男子は、ダークホースの四日市工（三重）が好調な試合ぶりで優勝を遂げ、三重県に史上初の栄冠をもたらした。

女子は、地元の清水商（静岡）が岐阜商（岐阜）を押しまくって7年ぶり2度目の優勝。愛知代表の4連勝は成らなかった。

▽男子準々決勝（＝1回戦）
御殿場（静岡） 10―8 名古屋市工（愛知）
四日市工（三重） 17―7 岐山（岐阜）
清水商（静岡） 15―10 尾鷲（三重）
岐阜商（岐阜） 8―7 名南工（愛知）

▽同準決勝
四日市工 15―13 御殿場
岐阜商 10―7 清水商

▽同3位決定戦
清水商 13―11 御殿場

▽同決勝
四日市工 12（5―6 7―3）9 岐阜商

▽女子準々決勝（＝1回戦）
市邨学園（愛知） 8―3 静岡城北（静岡）
岐阜商（岐阜） 8―7 暁（三重）
清水商（静岡） 12―2 四日市（三重）
岐阜南（岐阜） 7―6 岩津（愛知）

▽同準決勝
岐阜商 10―4 市邨学園
清水商 9―7 岐阜南

▽同3位決定戦
市邨学園 18―6 岐阜南

▽同決勝
清水商 14（8―1 6―1）2 岐阜商

男女とも愛媛勢強し
四国高校選手権

〈速報〉四国高校選手権は7月20、21の両日香川・高松一高球技場で行われ、男女とも愛媛勢がベストフォア独占という好調だった。

男子は、宇和島南がインター・ハイ代表の松山東に快勝して初優勝、女子は新居浜商が前半の優位を活かして松山商を押し切り、2年連続8度目の優勝となった。

（詳報次号）

▽男子決勝
宇和島南（愛媛） 15（8―4 7―4）8 松山東（愛媛）

▽女子決勝
新居浜商（愛媛） 19（11―4 8―3）7 松山商（愛媛）

ブロック中学生大会

第6回東海地区中学生大会（6月15日・四日市市体育館）男女各4校参加

▽男子1回戦（＝準決勝）
御桜ク（愛知） 29（1415―3 1）4 清水二（静岡）
長森（岐阜） 16（7―5 9―2）7 菰野（三重）

▽同3位決定戦
菰野 25（1510―3 5）8 清水二

▽同決勝
御桜ク 9（4―3 5―5）8 長森

御桜クは初優勝。（御桜クは名古屋市立御幸山と桜田両中学の連合）

▽女子1回戦（＝準決勝）
加納（岐阜） 7（5―2 2―2）4 名塚（愛知）
明和（三重） 11（6―5 5―2）7 静岡東（静岡）

▽同3位決定戦
名塚 16（7―3 9―1）4 静岡東

▽同決勝
加納 12（6―2 6―1）3 明和

加納は2年連続3度目の優勝。

第4回四国中学生選手権（6月29日・松山市勝山中学体育館）男子3校女子1校参加

▽男子リーグ
桜町（香川） 13（5―6 8―2）8 片魚（高知）
片魚 21（14―5 7―6）11 角野（愛媛）
桜町 15（9―5 6―2）7 角野

【順位】①桜町②片魚③角野＝桜町は初優勝

▽女子 ①塩江（香川）＝エントリーが1校のため認定優勝、初。

〈注〉東海、四国とも男女優勝校が全国中学生大会代表となる。

◇広島県

▼男子1回戦（2試合）
呉工 24―6 三次工
瀬戸内 12―10 賀茂

▽同2回戦
修道 24―4 瀬戸内
三津田 16―8 三次
尾道 15―6 江田島
宮原 26―7 誠之館
山陽 15―6 呉港
城北 14―2 安芸
広 20―9 盈進
三原工 20―14 呉工

▽同準々決勝
修道 31―7 三津田
宮原 11―10 尾道
山陽 18―6 城北
広 14―10 三原工

▽同準決勝
修道 18―11 宮原
山陽 13―9 広

▽同決勝
修道 14―11 山陽

修道は2年連続15度目の代表

▼女子1回戦（1試合）
尾道商 5―3 賀茂

▽同準々決勝
山陽女 29―0 尾道商
豊栄 11―4 宮原
進徳女 16―1 呉商
第一女商 17―2 戸手商

▽同準決勝
山陽女 11―0 豊栄
第一女商 10（延）9 進徳女

▽同決勝
山陽女 11―5 第一女商

山陽女は2年ぶり12度目の代表

夏の3大会近づく

・全日本教職員（10日～13日佐賀県神埼）
・全国中学生（17日～18日石川県小松）
・全国高専（28日～29日愛知県豊田）

インター・ハイ（全日本高校選手権＝別掲）と並ぶ夏の恒例行事（大会）があいついで開かれる。

まず8月10日から13日までの4日間、佐賀県神埼町で第18回全日本教職員選手権、つづいて17、18の両日、石川県小松市で第4回全国中学生大会、28、29日は2年目を迎える全国高専選手権が愛知県豊田市を会場にして、熱戦を繰り拡げる。（編集委員会）

◆第18回全日本教職員選手権　男子36、女子7チームが出場、別掲の組み合わせで、来年の若楠国体リハーサルを兼ねて行われる。

佐賀でハンドボールの全国大会が開かれるのは初めて。

男子は昨年あたりから、新しい傾向として目立ちはじめた一県からの複数参加がいっそう強まり、第15回大会（昭47）と並ぶ最高のチーム数を数えている。

しかし、優勝争いとなると、やはりその顔触れは変わらないようで、ここらあたりが、教職員球界の特色でもあり、一つの〝壁〟であるとも云える。

選手の入れ替り、新人の加入も他分野のチームとは条件が異なりクラブチームというものの、制約がある。

その点で、若い指導者の「入県」を求める国体関係県が、比較的、〝選手〟の質を揃えることができ上位チーム、Aクラスチームの座を確保することにつながってくる

強豪の固定化は、新鮮味を乏しくするのだが、この大会はそれでもよいと思う。

こうした繰り返しを重ねていくうちに、他の球界とは趣きを異にする厚味がでてくるのだ。

イーグルス追う三重ら

さて今年の大会、大阪イーグルスの2度目の5連覇が成るかがやはり最大の興味だろう。

退潮化といわれながら、昨年度も安定したチーム力で、国体（教員の部）と併せて2冠を飾っている。個々のもつセンスが抜群。

GK本田（オリンピック候補）をはじめ福井、池本、安達、高橋足羽、市田ら主戦メンバーは不動で、準々決勝に予想される千葉×三重の勝者との一戦が、ヤマとみられる。

千葉は氷海、松、浅原ら巧者を揃え、昨秋の国体ではイーグルスに18－21と粘りついている。

三重は今秋の国体開催地。夏目坂本、GK神谷らに今季は川畑（早大）、宇尾野、山内（ともに大阪体大）ら東西学生界のトッププレイヤーを加え、いちだんと攻守に鋭さが増している。千葉はもとより、イーグルスにも善戦して、秋への布石をいっそう確かなものとしたいだろう。

実力ある茨城、スワロー

昨年、2大会の決勝でイーグルスに敗れた茨城も主力メンバーが変っていないだけに有力だ。池田、中村、塚田、高野、GK大村と粒ぞろい。

スワロー兵庫のイーグルスを追う執念も相変わらずのもの。松岡、中村、黒田、GK上野らの激しい攻守は7年連続ベストフォアという快記録に実っている。

優勝は、この5チームのなかからでるだろうというのが、関係者の一致したみかただ。

波乱を巻きおこすとすれば一発勝負に強い静岡、九州の雄鹿児島地元の声援をうける佐賀、2年連続4位の愛知、伝統の東京、熊本、福岡、岩手、フェニックス（埼玉）神奈川あたり。

このうち、鹿児島、佐賀の九州勢と愛知は波にのれば上位をつぶすだけの力をもっている。新進では青森、栃木が注目されよう。

話題を集めているのは大垣農高職員（岐阜）。単一校の教職員による編成は、本誌の調べでは第3回（昭35）の鳳高教員ク（大阪）以来だが、おそらく本格的経験者は少いであろう。こうしたカラーのチームの出場は大歓迎されるべきだ。

2年前から始められた女子は、これまで最高の7チームが集まる3連勝を狙う大阪も楽観を許せない。

優勝争いはともかく、この場をよりどころにして、OGの活動年令が、少しでも引きあげられれば目的は充分に達せられる。

国内の女子学生界は、教員養成大学が圧倒的に多く、強いのだからなおさらである。

全日本教職員選手権・男子

大阪イーグルス
静岡県教員団
フェニックス（埼玉）
和歌山教員ク
山口県教員団
千葉教員
三重教員団
鹿児島教員
兵庫愛球会
大垣農高職員（岐阜）
高知教員
長野教員ク
佐賀教員
大分教員
神奈川教員団
青森教員団
ロイヤルスワロー（兵庫）
愛知教員
スワロー兵庫
宮崎教員
広島教職員
岐阜教員
栃木教員
京都教員
熊本教員
東京教員
大阪教員ク
長崎教員
愛教ク
オールドイーグルス（大阪）
香川教員
福岡教員
和歌山教員クB
福井教員
岩手教員ク
茨城教員

同女子

大阪教員
じゅうもんク（福岡）
茨城教員
岐阜教員
熊本教員
兵庫教員
愛知教員

危機に立つ日本協会財政

新しい事業の開発急げ

―今回は日本協会収入の現状をとらえてみよう―

日本体協は7月3日東京で開いた理事会で、加盟37競技団体に対する今年度競技力向上事業費補助金分配額を決定した（＝次頁）

ハンドボール、189万円、前年比21万円増、16番目のランク。

このほかに今年度、日本ハンドボール協会へ日本体協を通じて支払れるお金は、スポーツ振興金60万円（＝推定）、国体旅費60万円（本部役員4、審判員27）、それに第6回世界女子選手権遠征旅費補助費283万円だけである。〆めて502万円。（国体旅費は予想額）

額面だけみると、まずまずと思われる読者も居られるだろう。がそうはいかない。

国体旅費は、そのまま帳簿を素通りするだけで、近年は、招集する審判員の居住地によっては、支給額でおさまり切れぬケースさえある。

世界女子にしても、この額は14名分の往復旅費の3分の2相当額であって、少くとも残り3分の1（約142万円）は、自己調達しなければならないし、ナショナルチームの望んでいる役員2、選手14ということになれば、さらに70万円近くが要る勘定。

メインともいうべき競技力向上事業費にしても、体協補助額の最低33％(63万円)を負担金として上積みすることが規定されている。

しかし、現実には、補助額（189万円）と、自己負担額(63万円)を合わせた252万円で、男女両ナショナルを面倒みることはできない。

1回の合宿経費が約45万円。技術部が今年度提出している合宿計画は男子7回、女子5回、このほかジュニア（ヤング全日本）があるのだ。

日本体協もピンチ招く

日本体協を通じての国庫補助がこの程度の額で、しかも各事業をまかなうには、かなり多額の自己資金が要ることを知る人は意外に少ない。

ナショナルチーム関係者でさえも、最近まで、極めてこの面への認識が低かった。

第3者的立ち場の人はなおさらだ。筆者は、実業団のあるオーナーと、こんな会話をやりとりしたことがある。

「日本協会は、体協からの補助金などを、出し惜しんでいるのではないか」

「とんでもない。強化費とも云うべき体協補助金は168万円（49年度）だけなのですよ」

「月額だろう？」

「それなら云うこともありませんよ」

補助金というのは、国税や一部公益事業からの提供などが充てられ、日本体協そのものが、史上空前といわれる財政難にあえぎ、重大危機に見舞われている。

当然の影響として、競技力向上事業費補助金も、下降線をたどっており、例えば、最近10年間でピークと云われた44年度、ハンドボールは222万円(22位)であったものが年々削りとられ160万円台となりようやく今年度21万円アップで189万円に持ちなおせた。

トップを行く陸上競技などは、44年度に823万円を受けており〝落差・400万円〟だ。

日本協会・荒川清美理事長は「ハンドボールの場合、元が低いので、被害？も少くて済む」と苦笑まじりで云うが、この傾向の好転材料は、今のところあまりない。

ますます、各競技団体は、自己資金の調達を進めなければならなくなりそうだ。

〝底辺〟へのはね返しは限界

前号でも触れたが、日本協会の〝財源〟は、これまで登録チーム登録個人とされていた。

別表①　日本協会加盟金・登録金などの推移（単位円）

	都道府県協会加盟金	チーム登録料			個人登録料		機関誌年間購読料
		一般	学生	高校	一般	学生	
40年度	10,000	1000	1000	600	100	……	1200
41年度	10,000	1000	1000	600	100	……	1200
42年度	10,000	1000	1000	600	100	……	1200
43年度	10,000	1000	1000	600	100	……	1200
44年度	10,000	1000	1000	600	100	……	1200
45年度	A 10,000 B 5,000	2000	2000	1000	100	……	1200
46年度	A 10,000 B 5,000	2000	2000	1000	100	100	1200
47年度	A 20,000 B 10,000	4000	3000	1500	200	100	1800
48年度	A 20,000 B 10,000	A 4000 B 3000 C 300	3000	1500	200	100	1800
49年度	A 50,000 B 30,000 C 20,000	A 4000 C 300	4000	1500	200	……	2300
50年度	A 50,000 B 30,000 C 20,000	A 4000 C 300	4000	1500 (高専1500) (少年 500)	200	……	2500

それも、今や限界点だ、というのが、地方協会関係者の声である別表①を見ていただこう。

42年度に前体制を引きついだ荒川体制は、42～44年度の3年間はすべて据え置きの姿勢を崩さなかったが、45年度ついに大幅値上げを行い、そのあとは事業の拡充、物価と追いかけごっこを繰り返している。

増額のたびに、地方協会から「地方不在」がつかれ「還元施策」が望まれた。

しかし、現実は、日本協会として、最低線を確保するための徴収であって、新規事業をおこす資金集めではなかったのである。

今春2月の全国代議員会で、各代議員の「日本協会に協力したいのは、やまやまだが、チーム、個人にこれ以上の負担をかけるのは酷だ」という発言は、執行部をゆさぶるものであった。

田村正衛会長も「新しい財源確保」を約し、チーム、個人へのはね返しという、これまでの〝集金方法〟がリミットに来たことを痛感したようだが、はたして、新しい財源が日本協会にあるのだろうか。

「刊行事業」に伸び望めず

執行部、組織両サイドで望まれているのは「事業収入」である。

これまで、日本協会の主な事業収入は

①国際競技会収入

②刊行物（ルールブック、テキストブック、機関誌）収入

の2点であった。

このうち②は印刷・製本費、発送費などが高とうしており、しかも需要に限度があるため、飛躍的な増収は期待できない。

特に、機関誌は購読者数が横ばいとなっているのに比し、経費がかさみ、42～47年度ごろ、一般会計に収益金を送りこんだようなケースは少くなり、健全刊行を維持するので精いっぱいという現状だ

となれば、競技会収入が今後の大きな〝目玉〟となってくるだろう。

田村—荒川体制になって、国際交流がひんぱんとなり、しかも、ヨーロッパの有力クラブを、積極的に地方へ廻し、地方協会の組織力向上と、競技普及を狙った一石二鳥のアイディアは「新シーズン開幕国際試合」の恒例化に実るクリーン・ヒットとなっている。

だが、収入面では、総経費の開催地均等負担をまず前面に打ち出し、その〝おこぼれ〟を日本協会が受けるシステムのため最近は交通費（国内移動費）、宿泊費の値上がりで、思うにまかしていない。

日本体協競技力向上事業費補助金配分額(単位・万円)

	50年度額及び順位	45年度順位
ハンドボール	189⑰	㉒
陸上競技	435①	①
水泳	432②	②
バレーボール	372③	③
体操	354④	④
レスリング	339⑤	⑤
柔道	276⑥	⑧
卓球	252⑦	⑥
バスケットボール	252⑦	⑪
サッカー	234⑨	⑦
ウェイトリフティング	234⑨	⑳
スキー	231⑪	⑩
ボクシング	228⑫	⑨
ホッケー	216⑬	⑭
ライフル射撃	216⑬	⑬
ボート	201⑮	⑫
フェンシング	195⑯	⑲
自転車	186⑱	⑮
近代5種	177⑲	㉖
アイスホッケー	174⑳	未
バドミントン	168㉑	㉓
ラグビー	165㉒	㉔
アーチェリー	165㉒	㊱
スケート	159㉔	㉕
ヨット	159㉔	㉑
クレー射撃	159㉔	⑱
馬術	150㉗	⑯
カヌー	150㉗	㉘
テニス	147㉙	⑯
ソフトボール	141㉚	㉝
軟式野球	132㉛	㉖
軟式テニス	114㉜	㉘
剣道	114㉜	㉚
相撲	96㉞	㉚
弓道	96㉞	㉚
山岳	96㉞	㉝
銃剣道	96㉞	未
ゴルフ	……	㉝

（注）50年度　37競技団体
　　　45年度　36競技団体

・順位は本誌調べ

最近の国際試合（来日）収益額
〜本誌調べ・単位円〜

・グンメルスバッハ（46年4月）	111,456
・キール（47年3月）	420,940
・ダンケルセン（47年4月）	391,620
・ギョッピンゲン（48年4月）	71,825
・ラインハウゼン（48年4月）	382
・IFスタヂオン（49年4月）	129,620
・東ドイツ（49年9月）	1,124,701(推定)
同損失額	
・ユーゴ（48年9月）	−2,234,953
・スウェーデン（46年9月）	−1,566,969

（ただし，両大会とも全日本チーム滞同経費を含む）

48年9月のラインハウゼン（西ドイツ女子）戦で、日本協会が得た収入は、わずか382円である。

このため、執行部では総経費の開催地均等負担のほか、一定の〝開催権料〟（10～50万円）を受けとるシステムを考えたい意向だがそうなった場合、はたして名乗り出る地方協会があるか、どうか。

「地方協会は、現状でも充分採算がとれている。だから……」という声もあるにはあるが、「ナショナルチームならともかく、単独チームではねェ」と、〝荷〟に対する新しい注文が出てくる。

ところが、ナショナルになると相手側ががぜん高姿勢で、ユーゴのように往復航空旅費を含め、いっさい日本持ちとなる。

ユーゴ戦はたしかに、国内におけるハンドボールの〝位置〟を引き上げる有形、無形のプラスを生んだが、収支決算は223万円の赤字に終っている（注・ただし全日本経費も含む）

外国チームの「好条件招待」

これでは、財政面からみれば痛手となるばかりで、かえって傷口を拡げてしまう。

いちばんいいのは、昨秋の東ドイツのように、国内経費だけ日本側、しかも〝世界2位〟という看板を持ったチームの来日だ。

49年度会計中間報告によれば、東ドイツ戦の収支は112万円の黒字である。こうした好例を今後いかに増やしていくか。渉外手腕に希望がかけられる。

国内競技会での収入は、現状ではほとんど多くを望めず、現行の「日本実業団リーグ」を「日本リーグ」に改称し、1試合3万円程度の開催権料を日本協会へ納めるようにすれば、という提案が一部にあるのが、唯一の新しい動きといってよい。

ともあれ〝加盟金、登録金依存時代〟は終幕を告げようとしている。日本協会は自主事業をこれまで以上に、積極的に開発・推進しなければならない。

チーム、個人に新しい支援を願うためには、新しい企画と構想の発表を急ぐ必要があろう。（了）

豊田工機、2度目の栄冠

実連会長杯全国女子大会

第3回全日本実連会長杯争奪全国女子実業団大会は6月28、29の両日岐阜県高山市の飛騨体育館に日本実業団リーグ参加チームを除く有力5チームが集まり行われた。

大会はリーグ戦で進められ豊田工機（愛知）が得失点差で大和銀行（大阪）を制し、第1回（昭48）につづき2度目の優勝を飾った。

全日本実連では、日本実業団リーグ8位の日立栃木（栃木）と豊田工機の間で、来年度リーグ戦のための入れ替え戦を行う意向。なお、大和銀行（大阪）が伏原紡織(愛知)戦を「規程解釈誤りによる」という珍しいケースで没収負けとされた。

大和銀行（大阪）	14（9－3、5－4）7	豊田工機（愛知）
三洋電機（岐阜）	16（10－5、6－5）10	伏原紡織（岐阜）
豊田工機	18（7－2、11－1）3	岐阜市民病院（岐阜）
伏原紡織	没収試合（12－0）	大和銀行
三洋電機	15（6－2、9－0）2	岐阜市民病院
伏原紡織	9（3－3、6－4）7	岐阜市民病院
大和銀行	13（5－4、8－2）6	三洋電機
豊田工機	18（5－6、13－2）8	伏原紡織
大和銀行	15（6－8、9－0）8	岐阜市民病院
豊田工機	8（2－1、6－5）6	三洋電機

【順位】①豊田工機3勝1敗（得失点差20）②大和銀行3勝1敗(9)③三洋電機2勝2敗(10)④伏原紡織2勝2敗（マイナス2）⑤岐阜市民病院4敗

（豊田工機メンバー）GK山本、榊原美、FP近藤久、浜口、新実、黒柳、石川、近藤幸、近藤民、中村、榊原幸、今村好

豊田―大和の明暗

□……各チームとも、この大会を年間最大の目標にしている、といわれるだけあって熱戦つづき。

39年の全日本総合、40年の国体以来、久々のビッグエベントとあって市あげて大会を迎えた地元関係者の熱意に応えた。

優勝した豊田は、緒戦でつまづきながら持ちなおし、得失点差で大和銀行をかわした。

黒柳、近藤久、中村、GK山本ら攻守のバランスがとれていたが、大和が伏原戦で0－12の没収負けを喫していなければ、首位の座は難しかった感じで、幸運にも恵れたといえよう。

□……大和銀行は泣くに泣けない結果となった。優勝戦とみられた豊田戦を7点差で乗り切り、伏原戦も残り2分22－8と大差をつけたのだがここで記録席から「待った」。GK1、FP11で臨んでいたことが判り試合を没収され一転0－12の敗戦。初優勝さえも逃してしまった。

□……大和にとって不運なのは、このエントリーを、ミスと考えず初手から〝合法的〟と解釈していた点だ。

殿水幸雄監督によれば「前年度も今年とほとんど同内容の大会要項であったが、代表者会議で、大会の主旨にのっとりGKとFPの人員制限はしないと申し合せていた。当然、今年も12名以内ならばよいと判断した」。

□……ところが、今年の大会本部はあくまで、競技規則3－1が適用されるとして、大和の主張を受けつけず、没収負けを宣したものだが、大和に一人合点があったとは云え、親善色を打ち出した大会開設の背景からすれば、この裁定はいささか過酷な感じがしないでもない。

ましてや、試合前、選手を並べてのチェックも「通過している」（殿水監督）のだ。

規則は規則という精神が、秩序を守るために欠かせぬことも判るが、今回のケースは「解釈誤差」によって生じただけになんとか〝救済〟の方向で話し合うことができなかったのだろうか。（S）

名古屋市が2年ぶり

第13回5大都市ハンドボール大会は7月12、13の両日兵庫・神戸製鋼所体育館で、リーグ戦によって行われ、大同製鋼主力の名古屋市が、大阪市に昨年の雪じょくを遂げ、2年ぶり6度目の優勝を飾った。

【最終順位】①名古屋市4戦全勝②大阪市3勝1敗③横浜市1勝3敗④神戸市1勝3敗⑤京都市1勝3敗

明年以降の国体、総体開催地

日本協会は、日本体協、全国高体連の決定及び内定にもとずき、明年度以降の国体、全国高校総体のハンドボール会場地を次のように発表した。

	（国　体）	（I・H）
▽昭51	佐賀・神埼町	富山・氷見市
▽昭52	青森・七戸町	山口・山口市
▽昭53	長野・更埴市と戸倉町	福島・郡山市

日韓学生交流リポート

力強い成長示す韓国球界

久保義雄

交互に遠征という形の日韓学生交流も、早くも十年になろうとしている。どの様な評価がなされようと、その歩んだ歴史を否定する事は出来ないし学連としての事業の歩みとしては貴重な足跡である事は事実である。

今回の遠征に参加して感じた点の2〜3を記してみたい。

(1) まず、色々な起伏はあるにせよ、韓国チームの力感あふれたプレーとボールに対する執着心では学ぶべき点がある。

今の相手チームの状態からすれば兵役等の問題もあり、日本の実業団チームの様な育成が難かしいこともあって、学生チームが最強であり、それだけによく鍛えられたプレーであった。元来、下半身の強さとスタミナの点で優れているが、球技にその特性がよく生かされている。サッカーに限らずバレーボールも、野球も最近その躍進ぶりは目をみはらせるものがある。ハンドボールもお互いにその技術の向上をはかり刺激し合う事によって近隣の利を生かす事が出来るが、頂点強化に対する韓国協会の姿勢は非常に積極的であり意欲的である。男女別では女子の力量の方が洗練されてる様で、日本のトップに対する距離が近い様に感じられたし、力強い相手としての存在の様に思った。

今後は今の技のハンドボールに対して力がプラスされなければ世界へ伸びる道は険しいと痛感した。

レフェリングは、日韓両国の解釈に大きな相異点はなかったが、PT判定基準では、やはり戸まどいを感じさせる場面があり、これは比較的主観的要素が入りこむプレーだけに調整が難しい。

(2) 今回の遠征で強く印象に残ったのは地方都市での大会がその地域でのハンドボールの普及と発展に非常に大きな役割を果たしている点である。

例えば、ソウルより2時間余高速バスで南下した清州では、ハンドボールの国際試合は始めてとのことだが、真新しい体育館での日韓学生交流清州大会がおそらく今後この地にハンドボールの芽を大きく吹かせる原動力になると思う吾々を受け入れ大会を運営する為に、その地区の協会長を始め、役員、又大学が一体となって動いている姿は地方協会の力強い息吹きとして感じ取れた。又仁川でも同様に新体育館のコケラ落しとしての意義ある大会だった。唯各体育館共にハンドボール競技場としては縦の40米が不足しているのが残念であった。

日韓交流のマンネリ化を防ぐ為に、韓国チームが遠征して来た時には吾々も、いつも東京、名古屋大阪の様な「新幹線シリーズ」でなく、もっと地方で、その普及の為に、又その地区学連や協会の盛り上りの為に、大会が持たれるべきだと思った。

(3) この日韓交流に、最近非常に多額の経費がかかるという事にふれておきたい。

衆知の様に、日本体協も日本ハンドボール協会も慢性的赤字に悩み、その事業縮少が取り沙汰され又、第8回アジア競技大会もイスラマバード市が財政的事情によりその大会の返上を決めたと伝えられ、世界的不況がこんな処にも大きな波となって押し寄せている。

今回の遠征についても、合宿費から渡航費の一切に就いては参加各選手の自己負担であり、日本協会も、全日本学連も、これに対しては何ら手を貸すことが出来ないのが現状である。

こんなことは憶測で失例になるかも知れぬが受入側の韓国にしても、30数人の選手団の宿泊、食事移動費の一切、更に大会開催地のレセプションetc,と開催地協会の費用負担というものは非常に大きな額だったと思う。それにも拘らず開催地協会が挙げてこの日韓学生交流に示してくれた好意と情熱は大変なものであったと感謝している。

スポーツ交流が経済的な面で制約される事は悲しい事ではあるがここに至って、やはり交流戦の今後に就ては、プラス面はプラス面としても、何か新しい形へと向かわざるを得ない様な——もっと集約的な、もっと経済的で実り多き——新機軸が打ち出されねばならない時が来た様に考えられる。

この日韓交流を土台にして、経済的な問題とも取り組みながら、これが復数国による国際大会の形に伸びて行ってもよし、又、アジア学生界の交流の場として発展して行くのも一つの方向として模索されるべきだと思う。

と同時に全日本学連自身の体制強化は長期ビジョンの確立が急務の様に思うのは私一人だけであろうか。

（全日本学連理事・訪韓選手団々長）

成均館大戦をふりかえる

大熊　昌己

6月15日　ソウル運動場特設ハンドボールコートにおいて、約三千の観客を集めて、今回遠征のメインエベントである成均館大学との試合が「西会長林」をかけて行われました。コートの作られたソウルテニス場は、気温が三十二度と高く、各選手にとっては、大きな負荷となったと思われます。自分は、この試合を実力伯仲のクロスゲームと予想していましたが、試合開始、約十分の間にその予想は、崩れ去りました。韓国製のかるいボールが手になじまず、キャッチミスを繰り返し、そのうえ、そのボールを韓国側に拾われるというケースが多く、韓国側の速攻の餌食にされてしまい、日本のペースは完全に狂いました。各選手の足の動きも鈍り、ボールの離れが悪く、攻撃は、全体的なコンビネーションプレーが少なくなり、個人技にたよらざるほかなく、単調な攻撃になってしまったのです。

ディフェンスの面でも、フットワークが止まり、直線的な攻撃を主体とする韓国に対して、前へのつめが甘く、ポストへパスを通され、ポイントを重ねられました。不調の日本とは反対に、韓国の各選手は、のびのびとプレーをしていた様に思われます。その中でも、光る選手は車聖福と金成憲の両名であったと思います。車選手は、数度来日した時よりも、身長体重ともに一廻り大きくなった様に見えました。彼の射つシュートには、あいかわらずコントロールの良さがあり、ポストへのパスも正確なものがありました。車選手を中心としたセット攻撃の中で、攻撃のバランスを保つ為に射つ金選手のディフェンスの影を利用したスタンディングシュートや、対空時間の長いサイドシュートは、素晴らしいものがありました。しかし、成均館は、バランスのとれた攻撃に比べて、ディフェンス面では、甘い点が目につきました。各選手が小がらな為にディフェンスが低く見える事、そして、つめの甘さが感じられました。一人が前へつめた時のフォローディフェンスのコンビがまだ整っていなかった様に思います。その証拠としては、全日学生の後半に入ってからの、横の動きを多くした追撃を守りきれなかった点があげられると思います。又、後半に入って全日本学生のロングシュートがきまった事も、つめの甘さがある為と思います。結果論ではありますがまだ攻守共に、バランスのとれた全日本学生とは別に、もし、コンビネーションの整った単独チームとの間に行なわれた対戦であったならば、おそらく、日本側としては、星をおとす様な事はなかったと思います。この敗戦により、ハンドボールにとって大切な、コンビネーションあるいは、チームワークと言うのでしょうか、和というものが本当に大切であると感じました。

なお今秋以降に予想されるモンテリオール・オリンピックのアジア予選に、韓国は、おそらく、この成均館の各選手が中心となると思われます。

選手たちも、それをじゅうぶん自覚しているようで、我々から何かを吸みとろうとする姿勢がうかがえました。

最後に、昭和45年設定以来、日本側が保持しつづけていた西会長杯を、はじめて韓国側に渡してしまったことは、残念でなりません

後輩諸君に、次回で是非、奪還をお願いいたします（FP、中大4年、全日本学生男子主将）

《西会長杯とは、全日本学連会長西敏郎氏が、この国際定期戦の発展を願って5年前から贈ったもので、毎年、シリーズの最高カードにかけられる。昨年から女子にも贈られている》

◇第9回（女子第4回）日韓学生交流6～月12～21日・韓国～

▽男子

円　　光 18－13 全日本学生

成 均 館 27－21 全日本学生

全日本学生 23－13 釜　山

全日本学生 25－18 清　州

▽女子

全日本学生 16－14 仁川市庁

全日本学生 19－11 鳳永女子ク

忠州工専 17－14 全日本学生

漢　　星 16－13 全日本学生

（前号で「漢城大」としたのは誤り）

◇西敏郎杯試合年次成績

▽男子

①昭45 関東学生 19－14 韓国学生

② 全日本学生 15－14 韓国学生

③ 関東学生 15－13 慶　熙

④ 全日本学生 18－18 韓国学生

⑤ 関東学生 21－17 成 均 館

⑥ 成 均 館 27－21 全日本学生

▽女子

①昭49 関東学生 16－10 梨花女

② 漢　　星 16－13 全日本学生

女子、対学生は負けこし　女子の通算成績は日本の18戦9勝1分8敗となったが、このなかには今回対戦した社会人からの2勝が含まれており、大会の看板である学生交流は16戦7勝1分8敗と初めて韓国側がリードした。

各地学生春季リーグ戦（第3報）

金沢大、金沢工大の9連覇阻む

北信越

（6月21〜23日・金沢大学体育館・参加6校）

金沢大が常勝・金沢工大の9連覇を阻むなど活気のあるリーグ戦だった。

金沢大の優勝は、45年秋以来9シーズンぶり2度目。春季優勝は初めて。

金沢工大が、46年春信州大戦以来つづけていた不敗記録は、第3日富山大に敗れたため35試合（33勝2分）でストップした。

金沢大 17（8−4 9−6）10 富山大
金沢工大 13（5−2 8−1）3 信州大
福井大 17（7−7 10−9）16 金沢美術工芸大
金沢大 13（6−4 7−4）8 信州大
金沢工大 13（6−4 7−3）7 福井大
金沢美術工芸大 12（5−7 7−4）11 富山大
信州大 11（3−5 8−1）6 富山大
金沢大 15（6−7 9−2）9 福井大
金沢工大 19（4−5 15−3）8 金沢美術工芸大
信州大 12（10−2 2−7）9 福井大
金沢大 20（10−3 10−7）10 金沢美術工芸大
富山大 7（3−2 4−4）6 金沢工大
金沢美術工芸大 13（9−5 4−6）11 信州大
富山大 12（4−3 8−5）8 福井大
金沢大 11（6−1 5−2）3 金沢工大

	【金沢】	得	【金工】	得
GK	中野	0	酒谷	0
	酒井	0		
FP	佐野	2	中村	2
	桑原	0	野村	0
	谷内口	5	中西	0
	馬場	0	亀田	1
	芝	0	原子	0
	角田	0	福士	0
	西山	0	清水	0
	池村	4	木山	0
	杉原	0	高田	0
	守屋	0		
		11（2）	PT	（1）3

（審・若山、酒尾）

【順位】①金沢大5戦全勝②金沢工大3勝2敗③富山大・信州大・金沢美術工芸大2勝3敗⑥福井大1勝4敗

○……第1日、各校とも若返った陣容のためか緊張し、ミスが目立ったが、金工大、金大、福大が順調にスタート。

第2日、前季2、3位の富山大福井大の両校が2連敗し、全勝（3戦）は金工大と金大の2校、両者の優勝争いとなった。

ところが最終日、金大が金沢美工大に大勝したのに対し、金工大は富山大の食い下りにあい、6−6からタイムアップ寸前1点を失って、手痛い1敗をきっした。

優勝をかけた金大×金工大は、金工大がなんとか得失点差での首位を獲得しようと必死の攻撃をみせたが、金大は佐野、GK中野らを中心とした好ディフェンスをみせ攻めては好機を確実に活かして快勝、金工大の連覇を阻むとともに久々の優勝を遂げた。

（守屋義一）

関西2部は京大

〜関西学生2〜5部〜

（1部及女子記録のみ前号既報）

関西学生春季リーグ戦2〜5部（男子）は、2、3部各7校、4部5校、5部4校が参加して行われ2部は、京大が京都教大に敗れながら、その後の試合を手固く進めて優勝（通算5度目）。

3部は4部から初昇格の大阪教大が5勝1敗で優勝、4部は大阪工大、5部は大阪歯大がそれぞれ首位となった。

なお、各部の個人最多得点は男子が1部・矢辺信行（大阪体大、武庫工出）36点、2部・倉本積一（天理、添上高出）34点、3部・宮崎治郎（追手門学院、報徳高出）43点＝2季連続、4部・清水明久（関西外語、浜松南高出）21点、5部・片岡幹雄（大阪歯大、東大寺高出）27点と決まり、女子は船橋泰子（大体大、京都女高出）と、佐野かおる（武庫川女、鈴蘭台高出）がともに12点で分けあった。

リーグ戦後の入れ替え（上部下位2校と下部上位2校）で1〜2部以外はすべて入れ替り、名門関学が2部へ浮上した。

▽男子2部

関大 16−9 桃山学院
大阪府大 18−10 天理
京都教大 11−6 京大
天理 17−16 桃山学院
関大 19−12 大阪府大
京大 18−13 神戸大
京都教大 16−12 桃山学院
京大 15−14 関大
天理 11−10 神戸大
神戸大 16−11 桃山学院
大阪府大 20（分）20 京都教大
京大 20−9 天理
大阪府大 14（分）14 神戸大
神戸大 15−14 京都教大
天理 12（分）12 関大
京大 14−7 桃山学院
関大 15−13 神戸大
京都教大 14−7 天理
京大 11−10 大阪府大
京都教大 16−11 関大
大阪府大 19−13 桃山学院

【順位】①京大5勝1敗②京都教大4勝1分1敗③関大3勝2敗④大阪府立大2勝2分2敗⑤神戸大2勝1分3敗（得失点差マイナス2）⑥天理2勝1分3敗（マイナス21）⑦桃山学院7敗

混戦の3部は大阪教大

▽同3部
関　学 18—5 大阪薬大
立命館 16—15 追手門学院
和歌山大 15—4 大阪薬大
大阪市大 9—4 大阪教大
追手門学院 18—13 関　学
立命館 15—12 和歌山大
大阪教大 14—10 関　学
追手門学院 21—8 大阪市大
大阪教大 25—9 立命館
和歌山大 9—5 大阪市大
大阪教大 13—10 和歌山大
追手門学院 16—7 大阪薬大
関　学 25—9 大阪市大
立命館 22—7 大阪薬大
追手門学院 16—13 和歌山大
大阪教大 12—6 大阪薬大
立命館 12（分）12 大阪市大
関　学 24—14 和歌山大
大阪市大 13—6 大阪薬大
大阪教大 12—6 追手門学院
関　学 18—6 立命館

【順位】①大阪教大5勝1敗②関学4勝2敗（得失点差42）③追手門学院4勝2敗(23)④立命館3勝1分2敗⑤大阪市立大2勝1分3敗⑥和歌山大2勝4敗⑦大阪薬大6敗

4部大阪工大、5部大阪歯大

▽同4部
龍　谷 17—13 姫路工大
大阪工大 38—13 京都工繊大
大阪工大 21—6 姫路工大
関西外語大 15—3 京都工繊大
関西外語大 8（分）8 姫路工大
龍　谷 21—13 京都工繊大
関西外語大 18—9 龍　谷
京都工繊大 15—12 姫路工大
大阪工大 12—5 関西外語大
大阪工大 19—13 龍　谷

【順位】①大阪工大4戦全勝②関西外語大2勝1分1敗③龍谷2勝2敗④京都工芸繊維大1勝3敗⑤姫路工大1分3敗

▽同5部
神戸商船 14—12 奈良教大
大阪歯大 19—15 大阪外語大
奈良教大 19—7 大阪外語大
大阪歯大 15—9 神戸商船
神戸商船 13—7 大阪外語大
大阪歯大 18—13 奈良教大

【順位】①大阪歯大3戦全勝②神戸商船2勝1敗③奈良教大1勝2敗④大阪外語大3敗

教員養成大研修会開く

全国の教員養成大学々生を対象とした第2回全国教員養成大学研修会が、7月21日から4日間の日程で東京・日本青少年総合センターに、全国9大学98名の学生が参加、行われた。

この研修会は、文部省の後援をうけて、昨年度初めて開かれ好評を得た。今年はさらに内容、構想を新たにして進められ講師、受講者とも熱のはいった研修ぶり。

今年度は、女子の参加も認められるようになったが、会期が昨年より一ケ月近く繰りあがったためか、受講希望者は、予想より下廻った。

参加校は次のとおり。〔男子〕愛知教大、三重大、滋賀大大、阪教大、奈良教大、広島大、熊本大〔女子〕愛知教大、大阪教大

九州産大が圧勝

第25回九州地区大学体育大会ハンドボール競技は、7月12〜14日の3日間、久留米総合体育館に18校が参加（男子のみ）、今季好調の九州産大（福岡）が、4試合で113点をたたき出す秀れた攻撃力をみせ、圧倒の連勝を決めた。

（詳報次号）

インカレ代表に北大

北海道学連の、全日本学生選手権（11月、福岡）代表を決める予選会は北海道大学体育大会を兼ねて7月4〜6日の3日間、北大体育館に男子7校、女子3校が参加して行われ、男子は予想どおり北大が決勝リーグで室蘭工大、教大旭川を降し首位となった。

女子は教大釧路が攻守に一日の長をみせ教大旭川、北星学園大をおさえた。

（詳報次号）

手がけよ、ふさわしい事業
～全日本教職員連盟への提言～

岡田重博
（岐阜協会理事長・投稿）

どこの県でも同じでしょうが、最近のハンドボール界は競技者、チームが飛躍的に増加、私どもの小さなところでも急増したチームに協会当事者が掌握しきれず、連絡もれ、登録問題などでトラブルがおこり、特に、教員チームの帰属問題は担当者に混乱を生じさせています。

「全日本教職員連盟」。全国の都道府県から代表があり、ブロック理事が出され、執行部をつくり、会長がもたれる。もちろん、日本協会の堂々たる加盟団体である。

にもかかわらず、代表を出しているブロックや都府県内には、教職員組織は存在しない。

私の県では、国体に教員の部があることもあって、クラブ（チーム）が一つあり、割当てに応じている実情です。

一クラブが即県代表という奇妙な実態……。日本協会においては立派な頭をもち、口もある存在が末端にいけば、足もとはかすみ、形すらないまことに不思議な＜存在＞です。

私ども、地方の仲間は、日本協会内での発言権のための、または役員確保のための連盟ではないかと云いますが、現状ではそう云われても仕方がないようで、県協会内の組織確立のためには、私自身もその取扱いに先の見通しをもちません。

同連盟唯一の事業である全日本教職員選手権も、20年の球史を刻みわずかにチーム数が増加、執行部名簿が各都道府県に配布され、国体会場での前年実施を固定化させた“変化”はあったものの、国内ハンドボール界に、どのようなプラスをもたらしたのかは、疑問です。

大会そのものも、都道府県対抗的色彩が濃く、国体教員種目の二番煎じ的大会とさえ思います。

また、国体開催を機会に飛躍を願う開催地にとっても、魅力ある大会内容とも思えません。

教職の場にあることから、あえて「選手権」を名乗らずともよいと考えますが、そうした競技会の性格や理想の影がうすく、失望している人は、教員として私のみでなく、地方には数多くあると思います。

そこで、山間辺地で、小さな組織でしかない私ども岐阜県で、この問題について論議した一例を記載して、一考に供します。

岐阜協会は、昨冬12月20日第1回岐阜県教職員ハンドボール研修会を開催しました。

これは高校、中学でクラブ活動（教科外活動）開始にともなう指導者不足という、現場からの要請を汲みこんで、地区（県内）組織化の中核者育成という目的も併せて企画されたものです。

大会要項で、目標を明確にすべく、主体は単一職場のチーム構成を要求し、最大限、市、町、村の教育委員会事務局管理下の範囲とし、かつ「岐阜教員」チーム参加選手は2名以内と限定しました。

結果は10チーム117名の参加があり、大成功でした。

来賓として来場した県教育委員会係官から、種目講習会として、これだけの人数を命令権で実施しても集めるのは困難だと、賛辞をうけましたし、会場も応援にきた生徒たちのかん声で賑わったものです。

さらに岐阜県教職員ハンドボール界の先覚者であり、岐阜協会創設者である森島茂氏（現・岐阜協会顧問）からは優勝杯が贈られ、「岐阜教員」の選手たちは、終日会場設営、コートづくりにと監督以下全員が下働きをつとめ、他部門の若い選手に範となりました。

望外の喜びとなったのは、大会後、県内郡市の教育委員会から会場の誘致、参加方法の参加問合せが来たことです。

本年度の第2回大会は2日間を予定していますが、2面の体育館で消化できるものかどうか心配しています。

以上、いささか手前ミソな事例を述べましたが、私は町村教育委員会の単位でチームが生まれはじめた時、「県教職員連盟」を組織として認めたいと思いますし、その事業には、教職にある者にふさわしいものを求めるつもりです。

今日のハンドボール界の隆盛がとりわけ学校スポーツと云われるほど、教職にあった先輩の方々の御尽力におうところが大きいことは充分に知っているつもりですがだからといって、地方協会の中で高体連組織と混同した立ち場をとっていては、日本ハンドボール界100年の展望に立った時、孤立し、脱落の危険を感じます。

一日も早い全日本教職員連盟の脱皮を希みつつ、自惚れた意見を記しました。（了）

各地の記録

▼**岐阜地区社会人リーグ**（6月・岐阜県民体育館）＝男子のみ

岐阜イーグルス 23—2 岐阜歯大
岐阜イーグルス 23—9 市岐商ク
岐山ク 15—7 禅
岐山ク 16—12 二和家具ク
岐阜西ク 18—11 岐山ク
二和家具ク 11—10 禅
禅 12—11 岐阜歯大
岐阜イーグルス 20—13 岐阜西ク
市岐商ク 17—16 二和家具ク
岐山ク 17—11 市岐商ク
岐阜西ク 21—10 禅
岐山ク 18—9 岐阜歯大
岐阜西ク 25—6 二和家具ク
市岐商ク 24—6 岐阜歯大
禅 15—12 市岐商ク
岐阜イーグルス 10（分）10 岐山ク
岐阜歯大 11（分）11 二和家具ク
岐阜イングルス 15—8 禅
岐阜イーグルス 18—9 二和家具ク
岐阜西ク 22—9 岐阜歯大
岐阜西ク 18—12 市岐商ク

【順位】①岐阜イーグルス5勝1分②岐阜西ク5勝1敗③岐山ク④市岐商ク⑤禅⑥二和家具ク⑦岐阜歯大

（この項「岐阜はんどぼうる通信」NO・9から）

男子は新進校が進出

▼**第29回大阪府民体育大会ハンドボール競技**（4月、三国ケ丘高）

▽高校男子準々決勝
摂津 13—7 北陽
此花学院 12—7 都島工
富田林 16—11 春日丘
泉北 16—4 大商

▽同準決勝
摂津 8（延）7 富田林
此花学院 — 泉北

▽同決勝
此花学院 16（8—4、8—4）8 摂津

▽同女子決勝リーグ
大谷 6—4 住吉学園
鶴見商 7—6 住吉学園
大谷 5—4 鶴見商

【順位】①大谷②鶴見商③住吉学園

女子で青森西勝つ

▼**第28回青森県高校総体ハンドボール競技**（6月・野辺地高）

▽男子準々決勝
三本木 13—12 鰺ケ沢
青森 10—6 青森東
青森商 16—7 十和田工
弘前南 16—11 柏木農

▽同準決勝
青森 11—9 三本木
青森商 11—9 弘前南

▽同決勝
青森 14（4—2、10—2）4 青森商

▽女子1回戦（3試合）
鰺ケ沢 15—0 柏木農
七戸 21—0 青森南
野辺地 11—8 三本木

▽同準決勝
青森西 23—2 鰺ケ沢
野辺地 6—5 七戸

▽同決勝
青森西 4（2—2、2—0）2 野辺地

愛媛で社会人リーグ

愛媛協会は新しい構想のトーナメントとして、実業団、クラブ、学生チームによる県社会人リーグを発足させた。

第1回の今年度は、6チームにより前、後期に分けて2回総当り

前期は7月上旬終了し、丸善石油が住友化学菊本を23—13で降した貴重な勝利などで5戦全勝、トップで折り返した。後期は11月の予定。

【前期順位】①丸善石油5戦全勝②住友化学菊本4勝1敗③松山ク2勝1分2敗④松山商大1勝1分3敗⑤新居浜ク1勝4敗⑥愛媛大2分3敗

投書欄　明日への提言

「少年」対策を組織的に

普及活動の一つにハンドボールスクールと、ハンドボール少年団の活動があると思います。

日本協会においては、各県協会に対し、ハンドボールスポーツ少年団々旗を昭和40年頃に配布はしたものの、組織について はなに一つ指導していないと思います。

全国的にみて、ハンドボール人口の少いのは小中学生に対する指導体系ができあがっていないからではないでしょうか。

普及指導部が各県普及部を集めてハンドボールスクールまたはハンドボールスポーツ少年団の育成、組織などについて指導し、小中学生に対する育成活動を活潑することが将来ハンドボール人口の増大を企る近道ではないかと思います【愛知・西川勤也】

後あじ悪い強硬抗議

先日閉幕した日本実業団リーグを観戦してのできごとです。

X対Yの後半15分すぎ、Xにこの試合3度目のPTが与えられたすると控審判からレフェリータイムの合図があり、同時に両審判員が本部席（記録席）へ呼び寄せられ、競技委員長からなにごとか一言二言……。

40秒後、試合は再開されたため一般観客は応援に夢中で、さして疑問もはさまず進み、結局、地元Yの勝利で終った。

試合終了後、控審判A氏にレフェリータイムの〝内容〟についてたずねると、「Xの監督から、PTのポイントオーバーに対し両審判員に注意しなければ、試合続行に応じかねるかもしれぬ」との感情的な抗議をうけ、このため、競技委員長は、試合放棄されては、観客に不快な感じを与える、悪例を残すとの判断から、タイムをとり、両審判員にその旨伝えた、ということであった。

競技委員長は、Xの監督の抗議を言下にはねつけることもできたろうが、考えた末の処置であったようだ。

Xの監督は、国内でも代表的な人。それでいながらルールを無視してまでの強硬抗議——後あじの悪さを感じました。

【匿名希望】

★**編集後記**

□……女子ナショナルチームの新陣容発表で、日本協会の頂点体制も、再び活気づく兆がみえはじめました。

そのなかで、9月恒例の国際試合が今年はお流れとなり、ファンを落たんさせています。

いぜん、日本は世界のハンドボール界からみれば〝孤島〟なのです。

□……来月号から誌面を刷新するつもり。これまで以上に皆さんの寄稿、投稿をお待ちしています。それぞれの立ち場で日本球界を論じあい、語りあうのも世界へ飛び出す一つの手だてです。（S）

日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第一三三号 昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可 昭和五〇年七月二十五日印刷 昭和五〇年八月一日発行 発行所 日本ハンドボール協会 東京都渋谷区神南一-一-一 電話 大代表(467)三一二一 振替 東京五八三四八番 編集兼発行人 荒川清美 定価二百五十円（一年間購読料二千五百円）